

清水町地域福祉計画

平成27年度 ～ 平成36年度

赤ちゃんから お年寄りまで
みんなで 支えあう 共生のまち



北海道清水町

はじめに

地域のつながりの希薄化、少子高齢化や核家族化などが進むなか、地域の連帯感や助け合いなどの相互扶助機能が低下するとともに、高齢者や子ども、障がい者への虐待が社会問題になるなど、私たちの暮らしを取り巻く環境は大きく変化しています。

本町においても、高齢化や人口減少が進み、私たちの暮らしは様々な課題や問題を抱え、地域福祉のさらなる充実が必要とされています。

社会が大きく変化している今、住民同士が支え合い、人と人とのつながりの重要性がますます高まってきています。そのなかで、誰もが住み慣れたこのまちで安心していきいきと暮らしていくためには、行政や専門機関の対応だけではなく、地域に暮らす私たち一人ひとりの力が必要です。

本町では、町内会、民生委員・児童委員の皆様をはじめ、各種団体の方々が、常日頃から地域活動や地域交流に積極的に取り組まれています。

また、アンケート調査からは、中学生や高校生の清水町に対する様々な思いも伝わってきました。

このような背景のもと、町民一人ひとりがお互いを認め合い、人と人がつながり、協働していくことにより、赤ちゃんからお年寄りまでのすべての世代が共に生きる共生型福祉の地域づくりを推進していくため、清水町地域福祉計画（第2期）を策定いたしました。

本計画を広く浸透させて、「赤ちゃんからお年寄りまで みんなで支えあう共生のまち」を実現してまいります。

最後に、この計画の策定にあたり、熱心な御審議をいただきました清水町地域福祉計画策定委員の皆さま、また、貴重な御意見、ご提言をいただきました町民の皆さまに厚く御礼申し上げます。

平成27年3月

清水町長 高 薄 渡

目 次

第1章	地域福祉計画について -----	1
1	計画策定の背景と目的 -----	1
2	計画の対象者 -----	3
3	計画の位置づけ -----	4
4	計画の期間 -----	4
5	計画策定の経緯 -----	5
第2章	清水町の現況 -----	7
1	人口の動き -----	7
2	子どもの状況 -----	8
3	高齢者の状況 -----	9
4	障がいのある人の状況 -----	11
5	生活困窮者の状況 -----	12
6	高齢者学級と消費者相談 -----	12
第3章	計画の基本理念と目標 -----	13
1	基本理念 -----	13
2	基本目標 -----	13
3	施策の体系 -----	14
第4章	施策の展開 -----	15
1	お互いを理解し、認めあえる地域をつくろう -----	15
	（1）福祉に対する理解の促進 -----	16
	（2）みんなが交流できる居場所の充実 -----	17

2	みんなの暮らしを、 みんなで支える地域をつくろう	-----	18
	(1) 暮らしを支える地域力の充実	-----	19
	(2) まちのなかで自分が活躍できる地域づくり	--	20
	(3) ひとりひとりの自立を支える地域づくり	----	21
3	ひとりひとりが、 安心して暮らせる地域をつくろう	-----	22
	(1) 総合的な相談支援体制のシステムづくり	----	23
	(2) 効果的に情報が提供できる環境づくり	-----	24
	(3) 福祉サービス利用者の 権利を守るしくみづくり	-----	25
	(4) ライフステージに応じた こころとからだの健康づくり	--	26
	(5) 安全に暮らせる生活環境づくり	-----	27
第5章	計画の推進と評価	-----	29
1	住民、福祉事業者、町の役割	-----	29
2	清水町社会福祉協議会の機能充実	-----	30
3	計画推進のために	-----	31
資料編		-----	32

※「障がい」と「障害」の表記について

本計画においては、「障がい」「障がい者」というひらがな表記を用います。ただし、法律等で規定されている名称や用語等については「障害」と表記しています。

第1章 地域福祉計画について

1 計画策定の背景と目的 ～ どうして計画をつくるの? ～



急速な少子高齢化により、社会保障と財政のバランスが崩れ、団塊の世代がすべて65歳以上となる「2015年問題」などを背景に、社会保障制度持続の可能性が危ぶまれ、自治体の財政にも影響を与えるなか、地域に暮らすひとりひとりが抱える生活課題は複雑多様化しています。

また、虐待やひきこもり、子育て家庭の孤立、高齢者の孤独死、貧困の拡大など、これまでの制度による福祉サービスだけでは解決が困難、不十分であり、新たな課題に対する支援が求められています。

互いに助け合う気持ちや、人と人とのつながりの意識に希薄化が見られ、生活に関する価値観が変わるなか、平成23年3月に発生した東日本大震災を契機に、私たちは今まで以上に地域における、人と人とのつながりの大切さを再認識しました。

非正規労働者の増加などの雇用状況の変化により、全国的に失業などを理由とする働き世代の生活保護受給者が増加しています。そして、地域からの孤立や排除を背景としたその「生きづらさ」は子どもの育ちや教育にも影響を及ぼしています。生活困窮となる原因も多様化するなかで、平成27年4月に「生活困窮者自立支援法」が施行されて、生活保護に至る前の段階で自立を支える取り組みが求められます。

私たちを取り巻く地域生活は変わり続けています。複雑多様化している地域の課題については、町民ひとりひとりの努力（自助）、住民同士の相互の支えあい（互助・共助）、公的な制度（公助）の連携によって解決していこうとする取り組みがこれまで以上に重要になっています。

本町においても、対象者を年齢や制度で分けないしくみづくりが必要となってきました。

本計画では、住民ひとりひとりの主体的な参加をもとに、地域の各種団体やボランティア、福祉サービス事業者、行政などが「協働」「連携」しながら、自分が暮らす地域の人と人との「つながり」を大切に「赤ちゃんからお年寄りまで、共に生き、支えあう地域」を実現しようとする（共生のまちづくり）が地域福祉であると考えます。

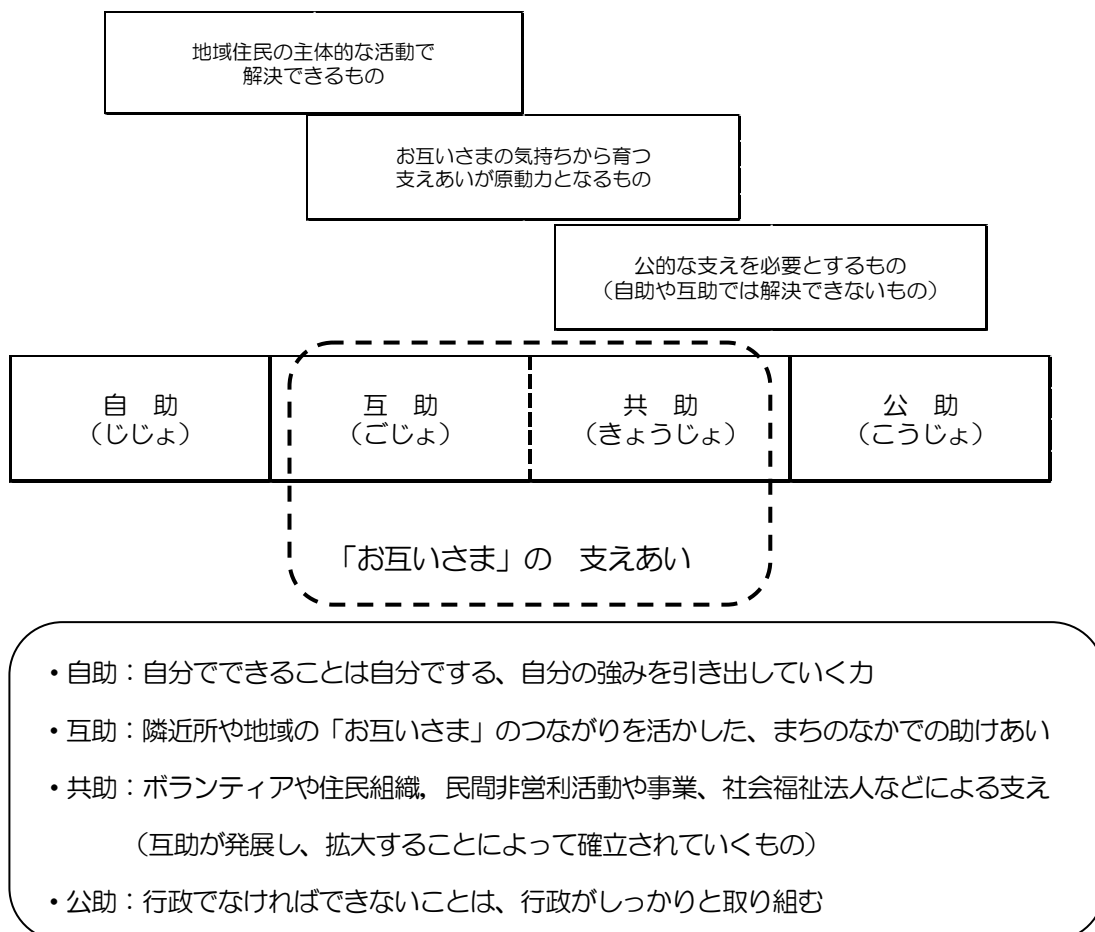
地域福祉の推進には「自助・互助・共助・公助」が基本となります。

家族形態の変化やつながりの希薄化によって、以前は解決できた課題が地域や家族内では支えきれなくなり、制度による福祉サービスなどの「公助」によって補われていきました。対象者ごとにサービスは整備されて、質や量も充実したものになりました。

その結果、わたしたちは、福祉は公助という意識を強く持ち始め、次第に地域における支えあいの柱である「お互いさま」という機能が減退していく状況が見られていきます。

さらに、自分らしく暮らすために、一番大切な「自助」が置き去りにされていきました。「自助」はまず本人が何をするべきかという意味を表すものであり、自分の力を引き出し、自分で自分を助けることであるともいえます。

「公助」のあり方は、「自助」と「互助・共助」の力を弱めるものではありません。「自助」と「互助・共助」の取り組みのきっかけとなり、「制度によるサービスを利用する」「サービスに依存する」だけではなく、お互いに助けたり助けられたりする協働を前提にして考えていくものです。



本町では、社会状況の変化や社会福祉制度の改正を踏まえながら、地域福祉をより一層推進するために、平成17年に「第1期清水町地域福祉計画」を策定し、平成22年に見直しを行いました。

平成26年度で第1期計画期間が終了することから、これまでの第1期計画の取組状況などを十分に検証した上で、平成27年度から36年度を計画期間とする「第2期清水町地域福祉計画」を策定するものです。

2 計画の対象者 ～ 誰のための地域福祉計画なの? ～

この計画の対象者は「清水町に暮らす、すべての人」になります。

生まれたばかりの赤ちゃんからお年寄りまで、本町に暮らしているすべての人のための計画です。すべての人が「支援を必要とする人」であり、同時に「支援をする人」になります。互いに協力して、互いの足りないものを補う、互いの違いや多様性を認めあう、ソーシャルインクルージョン（社会的包容）の考え方を基本とし、地域福祉を推進します。

ソーシャルインクルージョンは、「全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支えあう」という理念とされています。貧困や生活困窮に陥る、障害や困難を有する、制度の狭間にあってサービスの行き届かない人たちを地域から排除し、孤立させるのではなく、地域づくりへの参加と参画を支援し、社会の構成員として包み込むというものです。

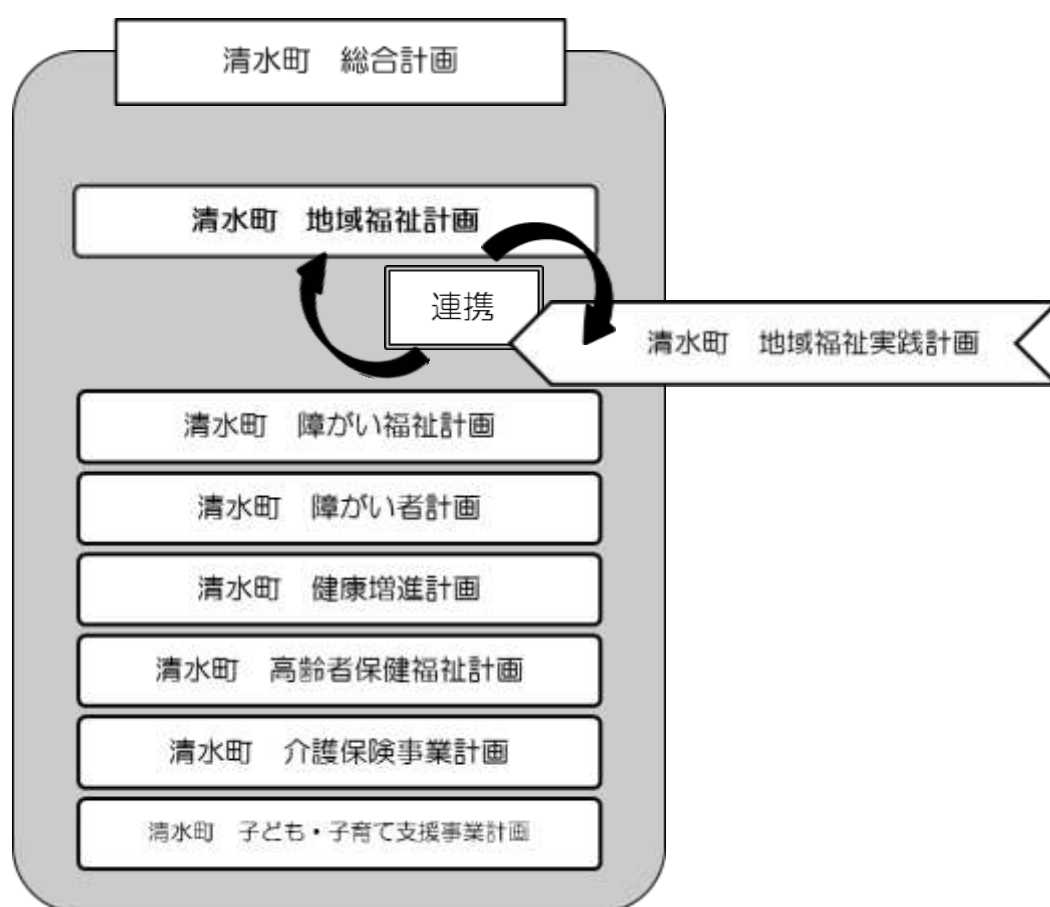
地域福祉計画はソーシャルインクルージョンの考え方を基本としていますが、その根底にあるのは「自助・互助・共助・公助」であり、どれが欠けても地域福祉は成り立たないといえます。

3 計画の位置づけ

地域福祉計画は、社会福祉法第107条に「市町村地域福祉計画」として位置づけられている計画です。（資料編 参照）

この計画は、上位計画である清水町総合計画（第5期：平成23年度～平成32年度）の内容も見据えながら、障がい者、児童、高齢者、健康などの保健福祉に関する各個別計画を横断的につなげて、これらを地域において総合的に推進していくための計画です。

また、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした、営利を目的としない民間組織である、清水町社会福祉協議会が策定する「第5期地域福祉実践計画」とも相互に連携していきます。



4 計画の期間

この計画の期間は、平成27年度から平成36年度までの10年間とします。

計画の評価・検証を定期的に行い、社会情勢の変化や地域の実情などを踏まえ、5年目の平成31年度に計画の見直しを行います。

5 計画策定の経緯

計画の策定にあたっては、町民の皆様の思いを十分把握し、それらを計画に生かしていくことが必要なため、策定委員の公募を行い、住民アンケート調査、パブリックコメントを実施しました。

(1) 清水町地域福祉計画策定委員会の設置

本計画の策定にあたり、公募による者、保健福祉に関する町及び社会福祉協議会職員、保健福祉等関連団体より推薦された者、地域福祉に広く精通し識見を有する者18名による策定委員会を設置し、計画の検討を行ってきました。(資料編参照)



(2) 住民アンケート調査の実施

住民の地域福祉に関する意識や課題などを把握することを目的に調査を実施しました。

(アンケート調査報告書参照)

- ・調査期間 平成26年10月10日～10月23日
- ・調査方法 調査票の発送・回収ともに郵送方式
- ・標本数 19歳以上、1000人 (無作為抽出)
- ・回答数 381人



(3) 中高生アンケート調査の実施

中高生が「清水町をどう見ているのか」、「それぞれが描く将来のまちはどのようなものか」など地域福祉に関する意識や課題などを把握するために、中学・高校生に協力を求め、調査を実施しました。(アンケート調査報告書参照)

- ・調査期間 平成26年10月10日～10月23日
- ・調査方法 学校を通じて、調査票を配布・回収
- ・標本数 町内の中学1年生、3年生全員と町内在住の清水高校生
- ・回答数 192人



(4) パブリックコメント（意見公募）の実施

第2期清水町地域福祉計画策定にあたり、町民意見提出制度により、地域住民の方から意見を募集するため、パブリックコメント（意見公募）を実施しました。

- ・期 間 平成27年2月13日から平成27年3月12日まで
- ・方 法 町内の5公共施設を地域福祉計画（素案）閲覧場所に指定して、意見を公募しました。

第2章 清水町の現況

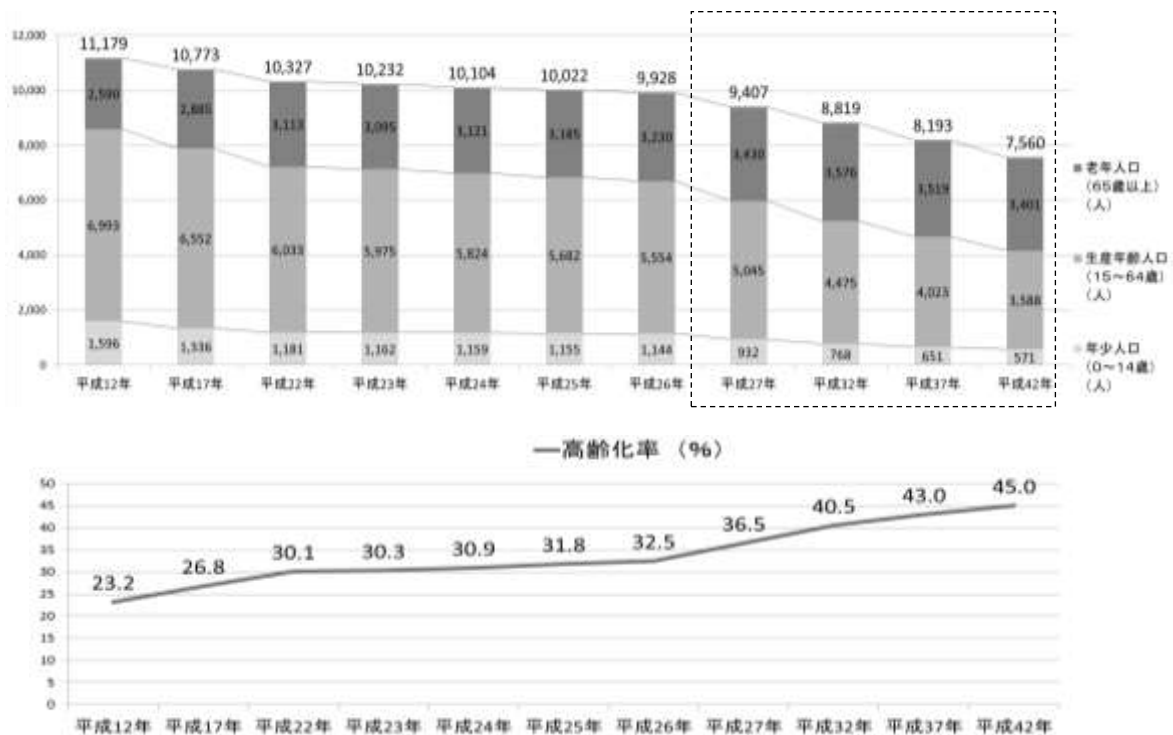
1 人口の動き ～どう変わったのか？ これから、どのように変わっていくのか？～

本町の人口は、平成26年3月31日現在で 9,928 人となり、平成12年3月より 1,251 人減っています。

高齢化率（総人口に占める 65 歳以上人口の比率）は上がり続け、平成32年には40%を超えるとされています。同時に子ども世代や、働く世代の人口は減り続けることが予想されます。このままでは少子高齢化の動きは、私たちが考えているよりも早いものになるかもしれません。

各年3月31日現在

	平成12年	平成17年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年
総人口数（人）	11,179	10,773	10,327	10,232	10,104	10,022	9,928	9,407	8,819	8,193	7,560
年少人口 （0～14歳）（人）	1,596	1,336	1,181	1,162	1,159	1,155	1,144	932	768	651	571
生産年齢人口 （15～64歳）（人）	6,993	6,552	6,033	5,975	5,824	5,682	5,554	5,045	4,475	4,023	3,588
老年人口 （65歳以上）（人）	2,590	2,885	3,113	3,095	3,121	3,185	3,230	3,430	3,576	3,519	3,401
高齢化率（％）	23.2	26.8	30.1	30.3	30.9	31.8	32.5	36.5	40.5	43.0	45.0



平成12年～26年（住民基本台帳）

平成27年～42年（国立社会保障・人口問題研究所）

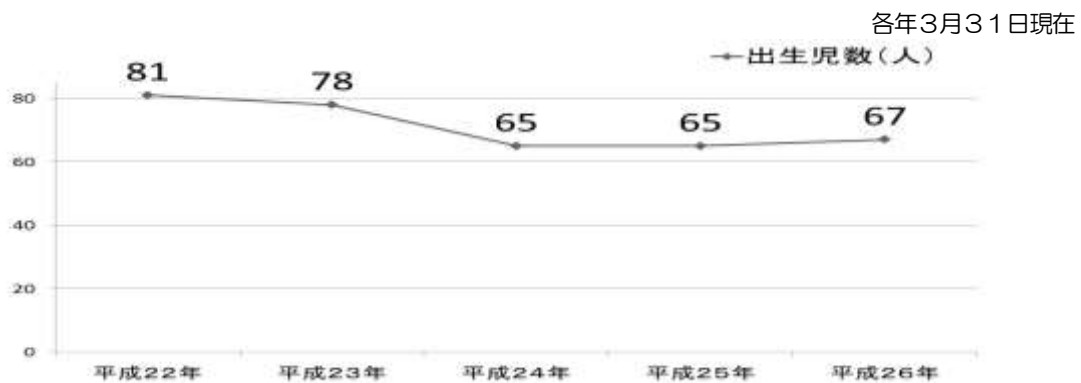
2 子どもの状況

(1) 出生児数の推移

14歳以下の子どもの数は、平成26年3月31日現在で1,144人ですが平成32年には768人まで減少するとされています。その減少率はおよそ33%になります。

(7ページの表、グラフ参照)

出生児数は、年度ごとに増減がある形で推移しています。



(住民基本台帳)

(2) 子育て支援センターの利用状況

本町には、子育て中のお母さん同士（お父さんも参加できます）が育児に関する情報交換ができる場として、また、子どもたちが楽しく過ごすことができる場でもある、子育て支援センターがあります。

0歳から就学前の子どもたちとお母さんたちが参加できる様々な事業を行なっています。

各年3月31日現在

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
利用者数(人)	2,585	3,388	4,025	3,739

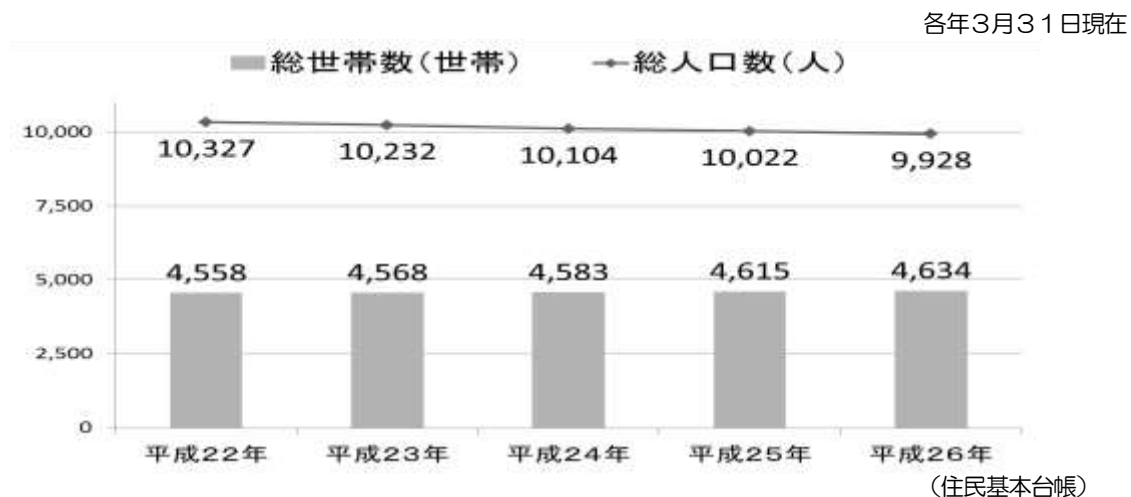
(子育て支援課)



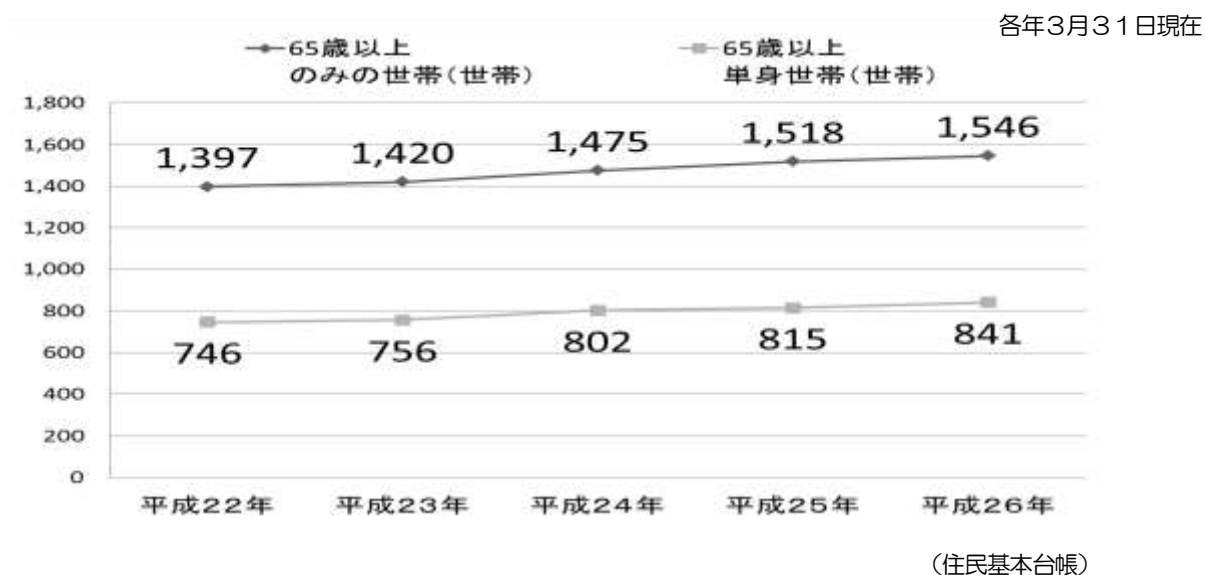
3 高齢者の状況

(1) 高齢者のいる世帯の状況

町内の総人口数は減少していますが、総世帯数は少しずつ増加しています。



総世帯数の増加にあわせて、「65歳以上の方のみで構成されている世帯」と「65歳以上の単身世帯」も増え続けていることから、家族構成の形態が変化していることがわかります。



(2) 要介護等認定者の状況

今後は要支援・要介護の認定を受けている方の増加も予想されています。

各年3月31日現在

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成32年	平成37年
65歳以上人口（人）	3,113	3,095	3,121	3,185	3,230	3,430	3,576	3,519
要支援1（人）	100	92	91	100	122	115	138	144
要支援2（人）	73	74	81	96	84	86	89	93
要支援（人）	173	166	172	196	206	201	227	237
要介護1（人）	106	98	102	87	125	150	180	194
要介護2（人）	54	81	71	86	85	100	110	116
要介護3（人）	72	76	64	66	58	55	60	65
要介護4（人）	49	53	62	74	72	93	108	124
要介護5（人）	87	84	83	85	82	100	132	151
要介護（人）	368	392	382	398	422	498	590	650
計（人）	541	558	554	594	628	699	817	887

平成22年～26年（保健福祉課）
平成27年～37年（国立社会保障・人口問題研究所）

(3) 高齢者の社会参加の状況

・清水町シルバー人材センターの状況



シルバー人材センターの会員数は平成26年度で164人となっています。今後は、団塊の世代が地域活動に参画する機会の増加も予想されており、地域の活性化も期待されます。

各年3月31日現在

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
会員数（人）	214	214	201	173	164



（全国シルバー人材センター事業協会）

4 障がいのある人の状況

障がい者数（各種障害者手帳所持者数）は平成26年3月31日現在で、身体障がい者が778人、知的障がい者が122人、精神障がい者が38人となっています。

また、自立支援医療（精神通院医療）の受給者数は119人となっています。

（1）身体障害者手帳所持者数

各年3月31日現在

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
身体障害者手帳 所持者数（人）	779	796	788	809	778

（十勝総合振興局）

（2）療育手帳所持者数

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
療育手帳 所持者数（人）	115	121	121	121	122

（十勝総合振興局）

（3）精神障害者保健福祉手帳所持者数・自立支援医療（精神通院医療）受給者数

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
精神障害者保健福祉手帳 所持者数（人）	33	38	38	38	38
自立支援医療 （精神通院医療） 受給者数（人）	117	117	117	126	119

（十勝総合振興局）

5 生活困窮者の状況

生活保護世帯は平成26年3月31日現在で、60世帯となっています。

各年3月31日現在

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
被保護世帯数 (世帯)	59	58	68	60	60
被保護人員数(人)	94	90	111	90	86
総人口数(人)	10,327	10,232	10,104	10,022	9,928

(十勝総合振興局)

6 高齢者学級と消費者相談

(1) 高齢者学級の参加状況

- ・高齢者学級の参加者数は増減を繰り返していますが、総合的には増えています。

各年3月31日現在

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
参加者数(人)	222	228	252	247

(社会教育課)

(2) 清水消費者協会の相談件数

- ・清水消費者協会への相談件数は、ほぼ横ばいで推移しています。

各年3月31日現在

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
相談件数(件)	117	107	106	90

(清水消費者協会)

第3章 計画の基本理念と目標

1 基本理念

この計画の大きな特徴は、清水町で暮らすみんなの幸せを考えていくことにあります。
ひとりひとりの笑顔が絶えない、お互いを認めあい、自分らしく暮らしていける、共に
生きるまちづくりを推進していこうという思いを込めて

「赤ちゃんからお年寄りまで みんなで支えあう 共生のまち」

を基本理念とします。

2 基本目標

本計画に掲げる基本理念を実現するために、次の3つを基本目標とします。

1 お互いを理解し、認めあえる地域をつくろう

ひとりひとりにとって、福祉が当たり前、今より身近に意識できる機会を通して、お
互いの個性や多様性を理解し、認めあうことができる地域づくりを推進していきます。

2 みんなの暮らしを、みんなで支える地域をつくろう

ひとりひとりが主体となって、それぞれの立場で生きがいを持ち、どちらかが一方的に
支えられたり、支えたりするのではなく、共に支えあえる地域づくりを推進していきます。

3 ひとりひとりが、安心して暮らせる地域をつくろう

ひとりひとりが自分の健康に高い関心を持ち、日常生活に不便を感じることなく、安心
して暮らすことのできる地域づくりを推進していきます。

3 施策の体系

基本理念	基本目標	施策の展開
赤ちゃんからお年寄りまで みんなで支えあう 共生のまち	お互いを理解し、 認めあえる 地域をつくろう	1 福祉に対する理解の促進 2 みんなが交流できる 居場所の充実
	みんなの暮らしを、 みんなで支える 地域をつくろう	1 暮らしを支える地域力の充実 2 まちのなかで 自分が活躍できる地域づくり 3 ひとりひとりの自立を 支える地域づくり
	ひとりひとりが、 安心して暮らせる 地域をつくろう	1 総合的な相談支援体制の システムづくり 2 効果的に情報が提供できる 環境づくり 3 福祉サービス利用者の権利を 守るしくみづくり 4 ライフステージに応じた ところとからだの健康づくり 5 安全に暮らせる 生活環境づくり

第4章 施策の展開

基本目標 1

お互いを理解し、認めあえる地域をつくろう

【現状と課題】

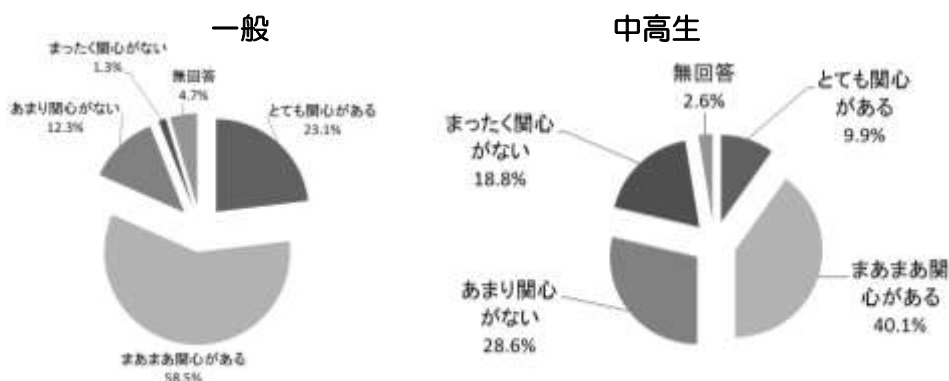
急激な少子高齢化と徐々に進む人口の減少化、働く世代や子ども世代の減少などにより、隣近所との付き合いも減り、地域に対する親近感が薄れ、地域の中で自然に培われてきた「お互いを知り、理解し、認めあう気持ち」が、価値観の多様化、個人主義の風潮などの影響などもあり十分に育っていないことが課題となっています。

こうした状況のなかで、赤ちゃんからお年寄りまで、誰もが幸せに暮らせるまちにするためには、すべての住民が互いに助けあい、支えあえるあたたかい人間関係を作りあげることが望めます。

福祉が当たり前に、今より身近に意識できる機会を通して、お互いの個性や多様性を知り、理解し、認めあうことができる「お互いさま」という対等な相互関係を少しずつ広げていくことが大切になります。

そのためには福祉を知る、理解する、交流できる機会が必要であり、すべての世代に対してお互いを認めあえる意識が根付いていく必要があります。

福祉に関心がありますか



【施策の展開】

(1) 福祉に対する理解の促進

「福祉」ということばは、暮らしのなかで、よく耳にすることばであると思います。

高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、福祉館、臨時福祉給付金、福祉灯油…、他にも〇〇福祉や福祉〇〇などと、「福祉」はとても広範囲で、あまりに複雑で、そして漠然としているものとして考えられています。

このまちで暮らす、すべての人に「福祉」は関わっています。では、わたしたちにはどのような「福祉」が関わっているのでしょうか。

福祉には

- a どのような制度があるのか
- b どのような仕事をしているのか
- c そして自分たちが暮らす地域には、どのような人たちが福祉に関わっているのかを知り、理解を深めていきます。

- ・町内会や各団体の特色ある試みや、積み重ねてきた活動を、他の地域住民にも伝えていく機会を通して、自分が暮らす地域に興味、関心が芽生えるように、ひとりひとりの福祉意識を高めていきます。
- ・福祉が年齢や性別、国籍に関係なく、すべての人に関係あることを知り「ふれる、学ぶ、携わる」経験を積み重ねて、理解促進へつなげます
- ・勉強会や懇談会、ワークショップ（参加体験型の学習の場）などの機会を通して、認知症や障がいなどに代表される、様々な福祉に対する関心の無さや誤解、偏見の解消を目指します。
- ・福祉に関わる各種団体やボランティア、福祉サービス事業者、行政などの活動内容を知る機会を通して、「何をしているのか」がわかり、町民の理解につながるよう取り組みます。

▼参考アンケート

一般	問1	問21	問22	問26	問27	問28	問31
中高生	問1	問21	問24	問25	問27	問28	

(2) みんなが交流できる居場所の充実

少子高齢化が進み、家族構成も変化していき、多様な価値観での暮らしが広がるなかで「人と人とのつながり」の重要性が求められています。

アンケート調査からも、高齢者世帯の増加や子育て世帯の核家族化など、生活形態の変化が表れています。同時に、地域に身近な居場所やたまり場が必要との指摘もされています。高齢者や子育てに追われる親、普段社会参加の機会が少ない働き世代が、地域に踏み出すきっかけとしての居場所であり、たまり場です。

本町にも「サロン活動」や子育て支援センターが実施している「げんきひろば」など様々な居場所がありますが、町民の誰もが知っているわけではありません。

また、古くからの結びつきを大切にして、小さな支えあいを積み重ねて、気がついたら居場所やたまり場として、近所のコミュニティの拠点となっている地域もあります。

居場所の大きさに関わらず、「つながりを実感できる場所」としての居場所の充実に、地域と連携して取り組みます。

- ・福祉の対象を、高齢者・障がい者・児童などと考えず、さらに年齢や性別、国籍などで利用者を限定せずに、世代をこえたふれあいや交流ができる共生型の居場所づくりに取り組みます。
- ・利用者がお互いの理解を深めることができ、地域に居場所がある安心感をひとりひとりが実感できるように、地域活動の拠点として身近な居場所となるサロン活動の活性化を目指します。
- ・社会からの孤立や排除を防ぐセーフティネットとしても居場所やたまり場が機能し、従来の福祉の枠にとらわれない、様々な活動の拠点となるように地域の活性化を図ります。

▼参考アンケート

一般	問13	問18	問19	問23	問25	問26	問31
中高生	問10	問21	問22	問23	問25	問28	

基本目標 2

みんなの暮らしを、みんなで支える地域をつくろう

【現状と課題】

わたしたちの暮らしは、家族や友人だけではなく、隣近所の人や地域の団体、ボランティア、福祉サービス事業者や行政など、様々な人やサービスとの関係、お互いの支えあいから成り立っています。

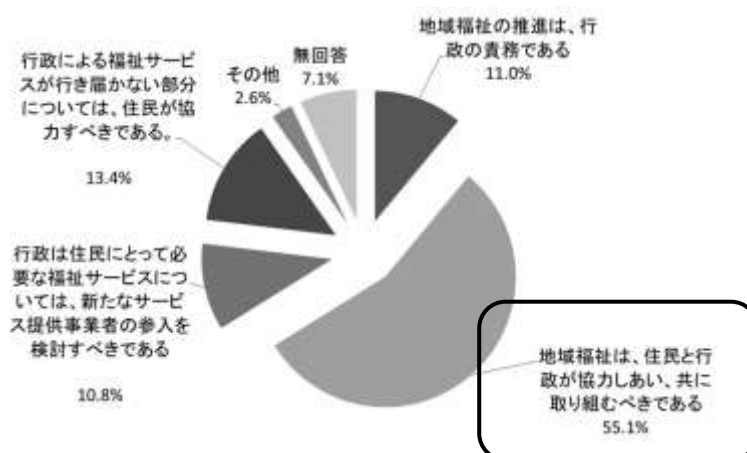
その関係は、町内会や民生委員・児童委員、社会福祉協議会、福祉サービス事業者、ボランティア、商店や行政などによって成立し、誰が関わっていくのかは課題に応じて様々です。時には自分が関係者の一人として課題の解決に携わることもあります。

複雑多様化している地域の課題に対処するには、様々な人たちが協力しあい、対応することが必要です。同時に、自分は支えてもらう側であり、また誰かを支える側でもある意識を持つことが必要です。

地域福祉の普及には、「福祉サービスは、行政が提供するもの」という考えにとらわれず、社会的な共通認識として、地域で暮らすひとりひとりが担い手になれるという、新たな基盤の構築について地域住民が主体となり、行政がともに考えていく必要があります。住民組織の課題を地域の課題として考えて連携していくには「自助・互助・共助・公助」を基本とした、それぞれの役割に応じた活動と地域の力が求められます。

横断的であたたかい支援ができる地域のネットワークづくりを推進していきます。

地域福祉の充実に必要なのは



【施策の展開】

(1) 暮らしを支える地域力の充実

住み慣れた地域で、いつまでも暮らし続けたいのは、みんなが思う願いです。

町に対して思う気持ちは、アンケートからも「暮らしている地域が好き」「今後も清水町で暮らし続けたい」という回答があり、中高生からは「一度は離れても、いつかは戻ってきたい」という回答が全体の30.7%もありました。

いつまでも暮らし続けられる、戻ってきたいまちとしてあり続けるには、暮らしを支える地域の力が強いものである必要があります。様々な人との結びつきと同時に、暮らしを維持できることも重要となります。

地域のなかにある社会資源やサービスを知ること、生かすことも必要です。地域の強みを活かした「自助」「互助・共助」を基本とした支えあいに足りないものについては「公助」で支援することにより、「自助・互助・共助・公助」の連携強化を推進します。

- ・地域での暮らしを支えるために、小地域ネットワーク事業に代表される町内会活動の活性化と、制度による福祉サービスを適切に活用できる体制を整備します。
- ・今ある各年代に対する様々なサービスや地域のネットワーク、地域の強みなどを組み合わせ、福祉に関するいろいろな情報がひとつになった社会資源マップ（仮称）を作成します。
- ・制度による福祉サービス以外の取り組みを含め、町に不足しているサービスの参入と、制度の狭間に陥らないように地域の実情に適したサービスの多様化を促進します。

▼参考アンケート

一般	問11	問20	問22	問19	問23	問28	問30	問31
中高生	問8	問9	問10	問21	問23	問27	問28	

(2) まちのなかで自分が活躍できる地域づくり

「自助」とは、ひとりひとりの立場や状況のなかで、自分に何ができるかを考えて実践することであり、自分の強みを引き出して、自分らしく地域で暮らしていくことにもつながる力といえます。

アンケートから、自分が暮らす地域に対して「地域のために、何か役に立ちたい」という回答もありました。仕事や子育て、趣味など自分が今まで培ってきた経験や知識、技術を地域に活かし、活躍できるまちづくりを行います。

- ・団塊の世代をはじめとする高齢者や学生、主婦、働いている人など幅広い世代から地域福祉を支える新たな人材が生まれ、活躍できる環境を整備します。
- ・ボランティアセンターが取り組む、関係団体間のコーディネートやボランティア同士の交流、活動の支援などに対して、設置・運営機関である清水町社会福祉協議会との連携や情報共有の強化に取り組めます。
- ・清水町介護予防ポイント制度やシルバー人材センターなどを活用し、高齢者の経験や知識、技術を生かした社会参加により「生きがい」や「自己実現の場」へと結びつけられるしくみをつくりまします。

▼参考アンケート

一般	問11	問13	問18	問19	問20	問22	問26	問30	問31
中高生	問19	問20	問21	問23	問25	問27	問28		

(3) ひとりひとりの自立を支える地域づくり

わたしたちが暮らす地域においても、お互いを知りあう機会は減り、生活困窮に至る可能性が高まっています。また、非正規労働者の増加などの雇用状況の変化により、失業などを理由とする働き世代の生活保護受給者が増えています。

平成25年12月に生活困窮者自立支援法が成立し、平成27年4月より施行されます。生活困窮者の支援については、十勝総合振興局や関係機関との連携が不可欠ですが、まずは地域での早期把握が何より重要となります。

また生活困窮に関わらず「生きづらさ」を抱える子どもたちに対しての支援の必要性も高まっています。子どもたちが傷つき、自分の力ではどうすることもできないといった課題に対しても、地域の支えあいが必要な意味を持っています。

様々な背景を踏まえて適切な支援ができるよう、地域の連携を強くしていきます。

- ・働き世代をはじめとした生活保護受給者が増加するなかで、町や清水町社会福祉協議会は生活困窮者の早期把握を行うとともに、生活困窮者が適切な支援へとつながる「最初の相談窓口」として機能できる体制を整備します。
- ・すべての子どもに対して、生きる権利、育つ権利、学ぶ権利があることを保障し、養育に困難を抱える保護者に対する支援も含め、子どもが健やかに育つ環境を整えていきます。
- ・地域で子どもを見守る、家族を支えることができるように、町内会や民生委員・児童委員に代表される「人のつながりと地域の見守り機能」を活かして、課題の早期発見、適切な相談支援につなげられる取り組みを進めます。

▼参考アンケート

一般	問14～問16	問19	問23	問26	問28	問30
中高生	問11～問21	問23	問25	問27	問28	

基本目標 3

ひとりひとりが、安心して暮らせる地域をつくろう

【現状と課題】

わたしたちが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らし続けていくには、暮らしを支える各種サービスを有効に利用していく必要があります。

アンケート調査の結果によると本町や清水町社会福祉協議会の活動内容について、市民の認知度は低いものでした。相談についても、アンケート調査からは「誰にでもわかる相談窓口のしくみが必要」との意見が多く、本町の各種機関が効果的に利用されているとは言えない状況です。

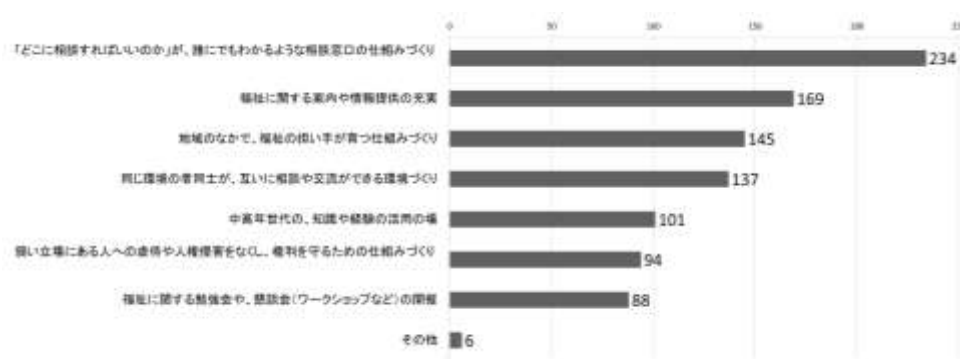
また、地域における福祉課題は多岐にわたっていますが、例えば高齢者と障がい者と児童は、分野が重複する内容が多く見受けられ、分野間での連携の必要性が高まっています。サービスを提供する側や相談を受ける側である行政や事業所は、相談内容（福祉、保健、医療など）や対象分野（児童、障がい、高齢など）を区別して支援していますが、実際に課題を抱えている側である住民にとっては、相談やサービスをひとつひとつ区別して考えてはいないと考えられます。

地域における福祉課題の分野ごとに、個別に対応体制を組織するのではなく、身近に相談できる人や場所が求められています。解決のためには、様々な相談に対応できる体制のしくみづくりも必要です。

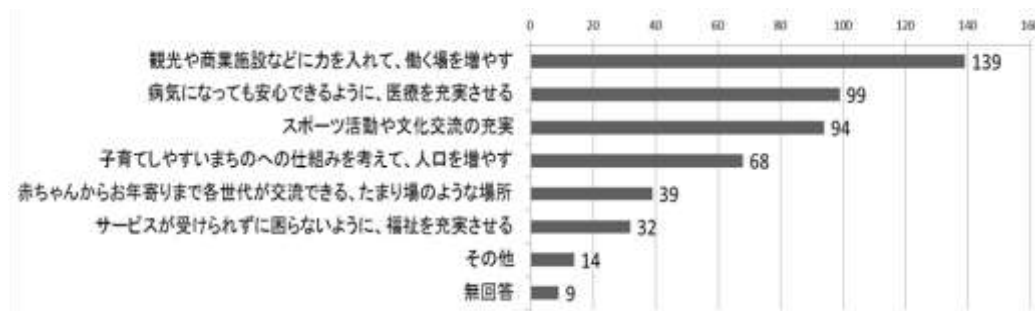
これからの地域福祉には、生まれたばかりの赤ちゃんからお年寄りまで、本町に暮らしているすべての人々が健やかに、心豊かに安心して暮らせるようなしくみをつくり、それを持続させていくことが求められています。

一般

地域福祉には何が必要と考えますか



中高生



【施策の展開】

(1) 総合的な相談支援体制のシステムづくり

「福祉」が高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉など分野ごとに細分化されると、提供されるサービスも専門性の高いものになりました。

その反面、支える側はそれぞれの専門的立場から関わるため、相談した側は「相談したいことは1つなのに、まず〇〇、次は△△に行って…、便利なような、不便なような」気持ちを抱いてしまいます。

アンケートの回答にもあるように、「誰にでもわかる相談窓口のしくみが必要」であり総合的な相談支援体制のシステムづくりが求められています。

このシステムづくりは行政だけで取り組むものではなく、地域の身近な相談役である民生委員・児童委員や清水町社会福祉協議会などとの連携が不可欠です。

アンケートからは、暮らしのなかで様々な「不安や悩みを抱えている」といった回答も多くありました。

担当業務の性質上、相談支援体制の一元化が難しいものもありますが、保健福祉の分野に関しては「どこに相談すればいいのか、どんな人が一緒に考えてくれるのか」がわかるしくみをつくれます。

- ・誰もがわかりやすく、利用しやすい、気軽に相談できる福祉の総合相談体制のシステムづくりに取り組みます。同時に、相談窓口の内容について広報などで紹介して、「どこに行けばいいのか」がわかるように伝えていきます。

▼参考アンケート

一般	問14～問16	問19	問22	問23	問26	問28	問30
中高生	問11～問18	問23	問25	問27	問28		

(2) 効果的に情報が提供できる環境づくり

福祉に関する制度や情報は多様であり、本町では広報誌や町のホームページなどを活用して、情報の提供に努めていますが、アンケートの回答からもわかるように、十分な提供には結びついていません。

わたしたちの暮らしに必要な情報は、様々であり、必ずしも福祉に関するものとは限りません。情報の集約化に努めると同時に、情報提供機能を高めて、時には行政や社会福祉協議会が地域に出向き、必要な情報が必要とする人へ届くしくみづくりを推進していきます。

同時にわたしたちは、お互いに情報をつなぐ立場にもなることを、地域活動を通して知っていく必要があります。行政や清水町社会福祉協議会だけが持つ情報だけでは、地域での暮らしは成り立ちません。ひとりひとりが暮らしのなかで気づいたこと、感じるものが、まちにとって大切な情報となることもあります。

- ・誰もが必要な情報を得られるように、地域からいただいた情報が効果的に活かされるために、適切なパンフレットやガイドブックなどの発行を行います。
- ・保健福祉の情報をできるかぎり共有化、一元化して、みんながわかりやすい情報提供のあり方を検討していきます。
- ・手話や筆記、点字などお互いの立場に対する理解を深めて、生活のなかで必要である情報を知る機会が狭められないように、誰にでも必要な情報が届く地域づくりを目指します。

▼参考アンケート

一般	問12	問13～問16	問18～問20	問24～問31
中高生	問11～問22	問25～問28		

(3) 福祉サービス利用者の権利を守るしくみづくり

本町では、本人の判断能力が十分ではない人でも、制度によるサービスが適切に利用でき、権利が守られ、自分らしく生きることのできる地域づくりを推進します。

成年後見制度や日常生活自立支援事業については、清水町社会福祉協議会と連携して、制度の内容がわかるように知らせていくとともに、困ったときに利用につながるように取り組んでいきます。

虐待や家庭内での暴力（DV）について、早期に発見し、通告できるように地域との連携を強くしていくとともに、迅速に対応できる体制を整える必要があります。

高齢者や障がい者の単身世帯が孤立しないように、町内会や民生委員・児童委員などと協働し、積極的な支援に取り組むとともに、見守りや情報把握に努めます。

障害者基本法にある差別禁止規定を具体化した、障害者差別解消法に基づき、障がいに対する関心の無さや誤解、偏見に対して勉強会や懇談会、ワークショップ（参加体験型の学習の場）などを開催して丁寧な啓発活動に取り組みます。

すべての福祉サービス利用者の権利擁護に取り組み、暮らしやすい地域づくりを推進します。

- ・認知症高齢者や障がい者など、本人の判断能力が十分ではない人が、地域で自立して暮らしていけるように成年後見制度や、日常生活自立支援事業の周知を図り、清水町社会福祉協議会と連携して相談体制を充実させます。
- ・高齢者や子ども、障がい者などの虐待を防止するため、各関係機関（要保護児童対策地域協議会など）との連携を強化していきます。同時に、町民へ制度の普及啓発を徹底していき、早期対応、再発防止に取り組めます。
- ・障がい者が働く事業所や会社から、積極的に物品を購入したり、業務を発注したりすることを定めた障害者優先調達推進法を活用し、障がい者の働く権利の保障を推進します。

▼参考アンケート

一般	問11～問16	問18～問22	問24～問31
中高生	問11～問18	問23～問28	

(4) ライフステージに応じたところとからだの健康づくり

わたしたちの暮らしにおいて健康が占める割合は大きく、またすべての世代にとっても健やかな生活を送ることは重要なことです。アンケートからも一番の不安や悩みは「自分や家族の健康に関すること」であり、中高生が必要と考える福祉も「だれもが健康で健やかに暮らせる医療、保健福祉の充実」という意見が全体の51.6%もありました。

赤ちゃんからお年寄りまで、健康で豊かな暮らしができるように、医療と保健福祉の充実に向けて、健康づくりや介護予防、早期発見や早期治療の視点を重視した取り組みを推進し、ひとりひとりの健康意識が高い地域づくりを目指します。

- ・安心して出産や子育てができる環境の整備から、高齢者の生きがいづくりまで、人生における様々な場面において、ひとりひとりの状況に応じた健康づくりを推進します。
- ・住み慣れたこのまちで、いつまでも健康であり続けるための「予防医療」、「介護予防」の重要性を学び、からだだけでなく、こころの健康への意識の向上にも取り組みます
- ・生活リズムの安定や食育の推進など、自分の健康に目を向ける機会の充実を図り、子どもの健やかな育ちを保障します。
- ・成人期から生活習慣予防について啓発し、さわやかプラザなどの社会資源を有効に活用して、支援の充実と健康意識の向上に関する活動を促進します。
- ・医療、保健、福祉の関係機関との連携を強化し、在宅での治療や看取りのニーズに対する療養支援が行える体制をつくります。

▼参考アンケート

一 般	問11～問13	問18～問22	問24～問31
中高生	問8	～問10	問19～問28

(5) 安全に暮らせる生活環境づくり

わたしたちの暮らしには、災害が起きないとはいいきれません。火災、地震、事故などの事象はどの地域にも起こるものとして、常に想定しておく必要があります。

平成 25 年 6 月の災害対策基本法の改正により、高齢者、障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する人を「要配慮者」、そのうち、災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に自ら避難することが困難な者で、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るため特に支援を要する人を「避難行動要支援者」ということになりました。

発災又は発災のおそれが生じた場合に、避難行動要支援者が円滑に避難できる体制の構築と、要配慮者が不安を抱かずに避難できるように、コミュニケーションや生活において求められる配慮事項の把握に取り組みます。

たとえば

- a 耳で聞くより、目で見た情報の整理が得意な人には、イラストや写真での情報提示を行う
- b 同居中の家族が不在時の発災における避難行動要支援者や要配慮者への安否確認の手段の確認
- c 避難所での生活に必要な設備（介護、看護、食事、排泄など）の配慮事項

などが該当します。

高齢者世帯の増加に伴い、地域内で消費者被害に遭う機会も増えています。本町においても、清水消費者協会、民生委員協議会、社会福祉協議会などとの連携を強め、「地域の支えあい」を軸とした防犯意識の向上に取り組みます。

また、普段の暮らしを通して感じる、町内の環境整備に対する取り組みも検討する必要があります。中高生のアンケートには「街灯がなく不安」という回答が複数ありました。また、オストメイト対応トイレなど身体状況に応じて必要としている設備が未整備であり、住環境への整備が急がれています。

住宅設備においては、高齢者向け、障がい者向けなど対象者ごとに考えるのではなく、すべての人のためのデザインであるユニバーサルデザイン住宅など、最初からできるかぎり多くの人が利用可能なデザインにするなどの配慮は、今では当然となっています。

みんなが安心して暮らすことができる生活環境の実現に向けて、地域とともに取り組みます。

- 民生委員・児童委員などとの情報共有を密にして、避難行動要支援者・要配慮者の把握を行います。
- 災害に対しての備えや防災教育など、災害は起こりえるものだという防災意識の向上に向けた取り組みを強化します。
- 清水町社会福祉協議会が作成する「避難行動要支援者・要配慮者マップ（仮称）」に関して、避難行動要支援者・要配慮者に関する情報提供を行い、有事の際に的確な支援ができる地域づくりに取り組みます。
- 地域や清水消費者協会からの情報を共有して防犯活動に取り組み、安心して暮らせる地域づくりを推進します。
- 環境整備や住宅設備において、地域からのニーズを整理し、十分に精査して誰もが暮らしやすい住環境の実現を目指します。

▼参考アンケート

一 般	問 1 1～問 3 1
中高生	問 8 ～問 2 8



第5章 計画の推進と評価

1 住民、福祉事業者、町の役割 ～ 協働による推進 ～

(1) 住民（わたしたち）ができること

わたしたちが暮らすこのまちには、ひとりひとりが抱える「困っていること」「手伝ってほしいこと」「一緒に考えてほしいこと」などのいろいろなニーズが存在します。そのニーズに対応していくための主役は、このまちで暮らすわたしたち自身です。

そのためには、住民ひとりひとりが地域を構成している一員であることを認識して、自分が暮らすこのまちに目を向けるとともに、身近な地域のなかで「お互いさま」の気持ちを育んでいくことが求められます。

身近な地域のなかで、何ができるのかを考え、実際に活動や行事を経験することにより、お互いを知り、理解を深め、共に生きるまちづくりに対する意識を高めていきましょう。

(2) 福祉事業者（福祉に携わる人、事業所など）ができること

町内における福祉事業者は福祉サービスを提供する役割を担い、これまで培ってきた経験や専門性を十分に活かし、サービスの充実に取り組まれています。

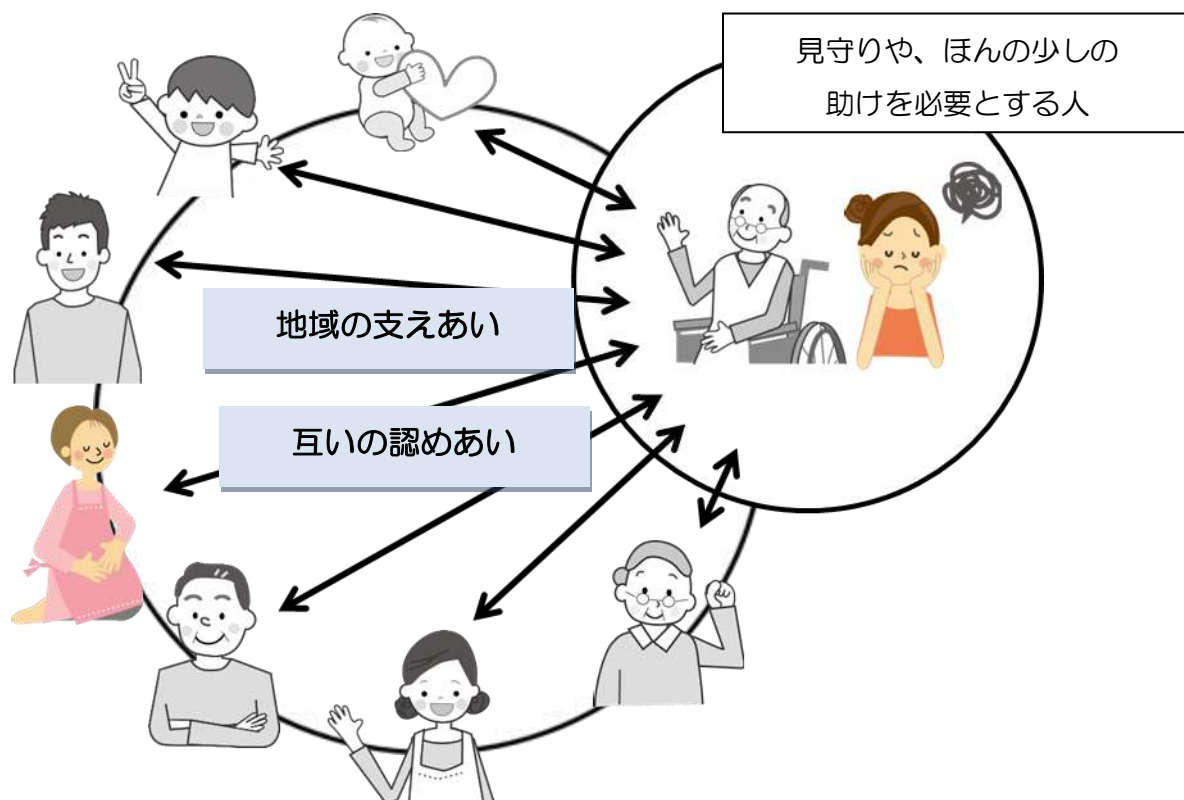
わたしたちが安心して暮らせるための支援のほか、福祉に関する知識や技術を地域に伝えることができる存在でもあります。ボランティア体験や様々な人たちとの交流などの機会を通して、横のつながりを広げていくとともに、それぞれが地域福祉の拠点となることも期待されます。

(3) 町ができること

地域福祉活動の充実には、住民の主体的、積極的な取り組みが求められます。そのためには「参加してみようかな」という気持ちが実際に行動に結びつけられる機会や、様々な情報が手に入る場所などが必要です。

地域の特色ある活動や、あと少しの支援でもっと暮らしやすくなる課題に対して、積極的に地域に出向き、共に考えていく取り組みを推進していきます。

わたしたちは、どちらかが一方的に支えられたり、支えたりすることのない、共に支えあえる関係であり、ひとりひとりが共に生きるまちの一員です。



それぞれのできることを認めあい、お互いのできることを理解して、暮らしやすい地域づくりに取り組みましょう。

2 清水町社会福祉協議会の機能充実

社会福祉協議会は、社会福祉法において「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として位置づけられており、地域福祉の推進を使命として、わたしたちが安心して暮らせる共生のまちづくりを実践していくための組織です。

清水町社会福祉協議会が策定した「第5期地域福祉実践計画」に基づき、清水町地域福祉計画と連動して、権利擁護事業の充実など新たな課題へともに取り組んでいきます。

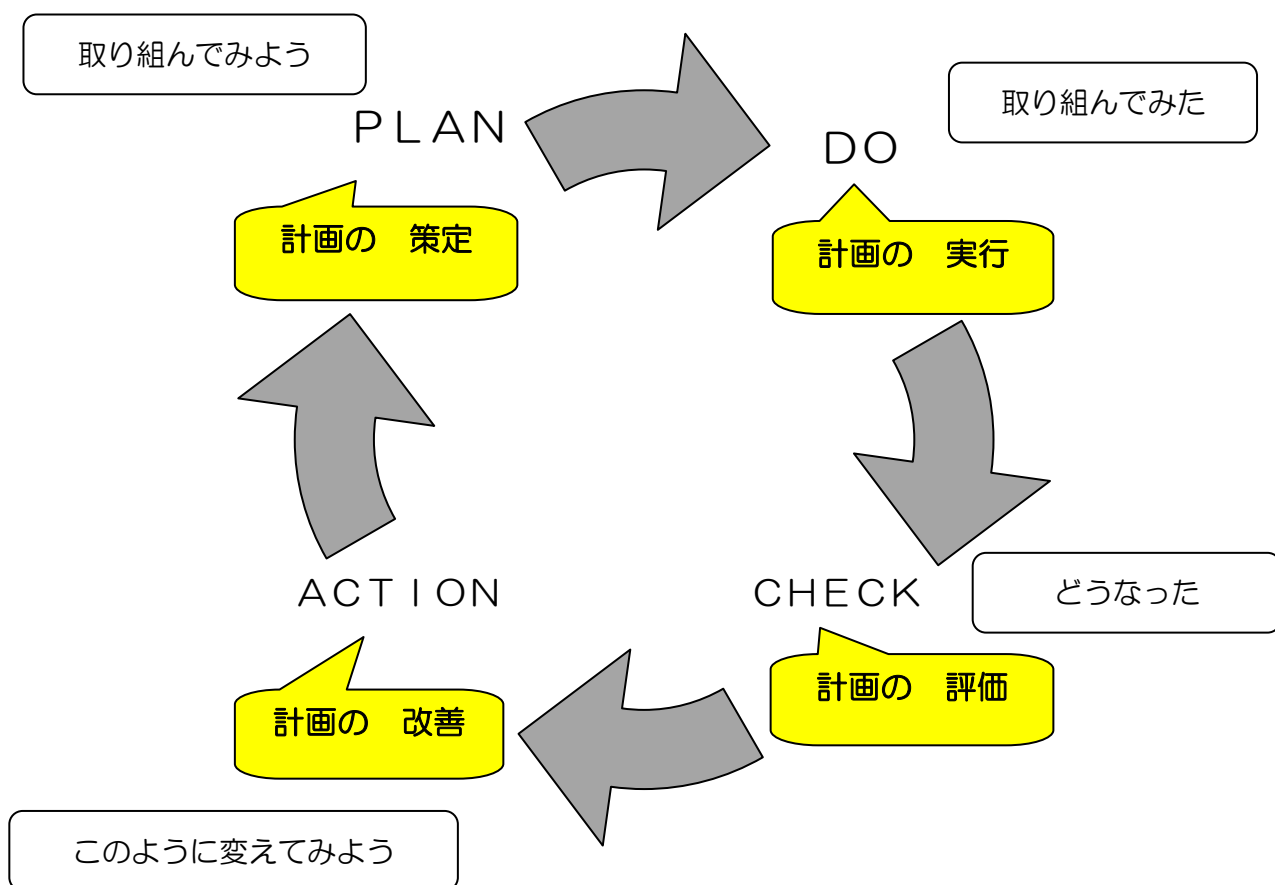
3 計画推進のために

本計画は「清水町地域福祉計画策定委員会」が中心となり、アンケート調査や関連計画の内容などを踏まえて、住民の目線に立った計画策定に取り組んできました。

計画を推進するためには、計画の進捗状況と成果を評価する仕組みが必要です。

本計画に基づいた地域福祉の推進をより実効あるものとするため、この計画の進行管理については、PDCAサイクルを活用して、計画内のサービスや取り組みの改善点を明らかにしていきながら、今後の施策の充実に生かしていきます。

計画の進捗状況を随時評価していくとともに、必要な見直しを行い、次期計画に活かしていきます。



資料編

- 1 社会福祉法について
- 2 清水町地域福祉計画策定委員会
- 3 清水町地域福祉計画策定経過
- 4 清水町地域福祉計画 アンケート調査報告



資料編

1 社会福祉法について

社会福祉法では、第4条で「地域福祉の推進」が社会福祉の基本理念の一つとして明記されているとともに、第107条では「市町村地域福祉計画」を策定することが規定されています。

社会福祉法（抜粋）

（地域福祉の推進）

第4条 地域住民、社会福祉を目的とする事業を営む者及び社会福祉に関する活動を行う者は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が与えられるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

（市町村地域福祉計画）

第107条 市町村は、地方自治法第2条第4項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を営む者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

- 1 地域における福祉サービスの適正な利用の推進に関する事項
- 2 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- 3 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

2 清水町地域福祉計画策定委員会

清水町地域福祉計画策定委員会設置要綱

（設置目的）

第1条 社会福祉法（昭和26年法律第45号）第107条により、地域福祉推進のために、地域の生活課題とそれに対応する必要なサービスの内容や量の現状を明らかにし、提供する体制づくりに関する計画（以下「地域福祉計画」という。）を策定するため、清水町地域福祉計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（所掌事項）

第2条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を所掌する。

- （1）地域福祉に関する調査研究
- （2）地域福祉計画の策定
- （3）その他計画の策定に必要な事項

2 委員会は、前項第2号の地域福祉計画を文書にまとめ、町長に提出する。

（組織）

第3条 委員会は、委員20人以内をもって組織し、委員は次に掲げる者のうちから、地域福祉に関わる関係者及び識見を有する者を考慮し、町長が委嘱する。

- （1）公募による町民（町内福祉関係事業所に勤務する町外者を含む。）
- （2）保健福祉に関する保健福祉課職員及び清水町社会福祉協議会事務局長
- （3）各ボランティア団体、清水町女性団体連絡協議会、清水町障害者児振興会連絡協議会、清水町老人クラブ連合会、清水町民生委員協議会及び清水町社会福祉協議会より推薦された者
- （4）地域福祉に広く精通し識見を有する者

2 委員の任期は、平成26年8月1日から平成27年3月31日までとする。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により決定する。

3 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

（会議）

第5条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見若しくは説明を聴き、又は必要な協力を求めることができる。

（事務局）

第6条 委員会の事務局は、保健福祉課に置く。

（その他の事項）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の同意を得て委員長が定める。

附 則

1 この要綱は、平成26年5月19日より施行する。

2 この要綱による最初の委員会の会議は、第5条第1項の規定に関わらず、町長が招集する。

清水町地域福祉計画策定委員会

住民の代表者としての責務と自覚を持って、策定委員会での議論を積み重ね、計画の検討を行いました。

清水町地域福祉計画策定委員会委員名簿

◎…委員長 ○…副委員長

	所属	氏名	備考
	一般公募	會 田 豊	第3条（1）
	一般公募	中 林 豪	第3条（1）
	町内会連絡協議会	長 尾 克 幸	第3条（3）
○	御影地域づくり推進協議会	三 輪 侃 士	第3条（3）
	障害者児振興会連絡協議会	梶 幸 雄	第3条（3）
	ボランティア団体連絡協議会	増 田 紀 子	第3条（3）
	老人クラブ連合会	遠 藤 洋 一	第3条（3）
	女性団体連絡協議会	玉 井 政 子	第3条（3）
	民生委員協議会	児 玉 一 紀	第3条（3）
◎	社会福祉協議会	加 地 保 良	第3条（3）
	社会福祉法人 清水旭山学園 特別養護老人ホーム せせらぎ荘施設長	鳴 海 大 輝	第3条（4）
	医療法人 前田クリニック 医療ソーシャルワーカー	佐々木 政 人	第3条（4）
	社会福祉協議会事務局長	吉 國 和 則	第3条（2）
	保健福祉課長	細 野 博 昭	第3条（2）
	保健福祉課参事	小 林 秀 文	第3条（2）
	保健福祉課課長補佐（健康推進）	吉 森 文 子	第3条（2）
	保健福祉課在宅支援係長	薩 摩 佳 子	第3条（2）
	保健福祉課介護高齢者保険係長	横 山 美貴子	第3条（2）

※〔第3条（1）公募による町民／第3条（2）保健福祉に関する町及び社会福祉協議会職員／第3条（3）保健福祉等関連団体より推薦された者／第3条（4）地域福祉に広く精通し識見を有する者〕

3 清水町地域福祉計画策定経過

年 月 日	内 容
平成26年 9月 8日	第1回地域福祉計画策定委員会 ・策定委員委嘱状の交付 ・策定委員会委員長、副委員長選出 ・地域福祉計画の策定について諮問 ・策定委員の任期、役割について説明 ・地域福祉計画の概要について説明 (目的、ねらい、役割、位置づけ、計画期間、策定体制、策定スケジュール、アンケート調査)
平成26年10月10日	地域福祉計画アンケート開始 ・(アンケート送付者) 一般 1,000名 中高生 200名
平成26年10月23日	地域福祉計画アンケート終了 ・(アンケート回答者) 一般 381名 中高生 192名
平成26年12月26日	第2回地域福祉計画策定委員会 ・アンケート調査の実施結果について報告 ・地域福祉計画の構成について協議 ・地域福祉計画に盛り込むべき事項について協議
平成27年 1月22日	第3回地域福祉計画策定委員会 ・地域福祉計画(素案)の内容について検討
平成27年 2月13日	パブリックコメント開始 ・町内5か所に素案を設置
平成27年 3月12日	パブリックコメント終了

平成27年 3月27日	第4回地域福祉計画策定委員会 ・地域福祉計画の内容について審議 ・パブリックコメントの結果について報告 ・地域福祉計画の答申について説明
平成27年 3月27日	町長へ答申

4 清水町地域福祉計画 アンケート調査報告

一般アンケート

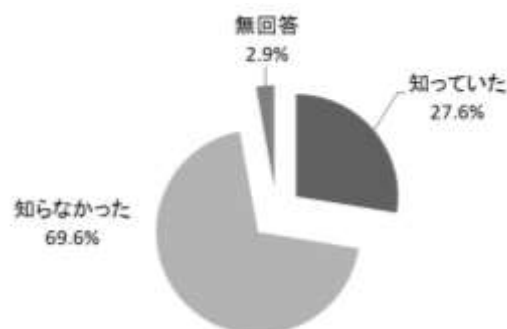
対象者（調査票送付者）	1000名
回答者（10月10日～10月23日）	381名
回答率	38.1%

まず、はじめにおうかがいします。

問1 あなたは「清水町地域福祉計画」という計画を知っていますか。
（ひとつだけに○）

1. 知っていた 2. 知らなかった

		件数	割合
1	知っていた	105	27.6
2	知らなかった	265	69.6
	無回答	11	2.9
	合計	381	100.0

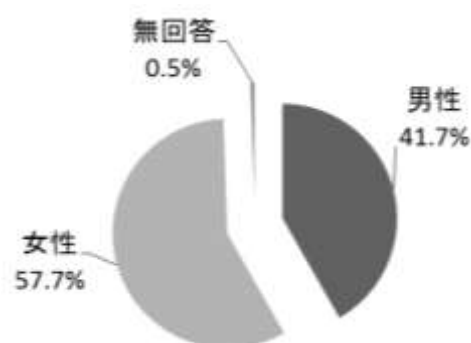


あなたのことについて、おうかがいします。

問2 あなたの性別は、どちらですか？（ひとつだけに○）

1. 男性 2. 女性

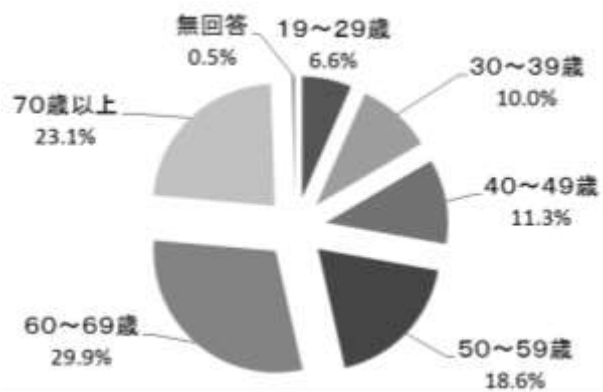
		件数	割合
1	男性	159	41.7
2	女性	220	57.7
	無回答	2	0.5
	合計	381	100.0



(ひとつだけに ○)

4. 50歲~59歲 5. 60歲~69歲 6. 70歲以上

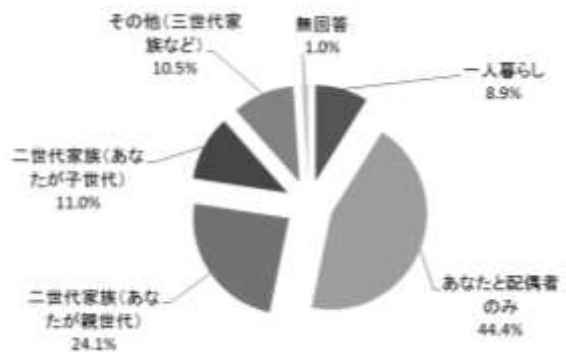
		件数	割合
1	19～29歳	25	6.6
2	30～39歳	38	10.0
3	40～49歳	43	11.3
4	50～59歳	71	18.6
5	60～69歳	114	29.9
6	70歳以上	88	23.1
	無回答	2	0.5
	合計	381	100.0



問4 あなたの家族構成は、次のどれになりますか。（ひとつだけに ○）

5. その他（三世代家族など）

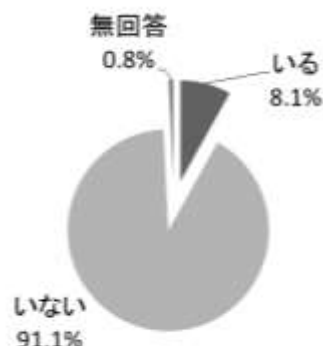
		件数	割合
1	一人暮らし	34	8.9
2	あなたと配偶者のみ	169	44.4
3	二世世代家族 (あなたが親世代)	92	24.1
4	二世世代家族 (あなたが子世代)	42	11.0
5	その他 (三世世代家族など)	40	10.5
	無回答	4	1.0
	合計	381	100.0



問5 あなたには、小学校に入る前の年齢のお子さんがいらっしゃいますか。
(あてはまるものに ○)

1. いる 2. いない

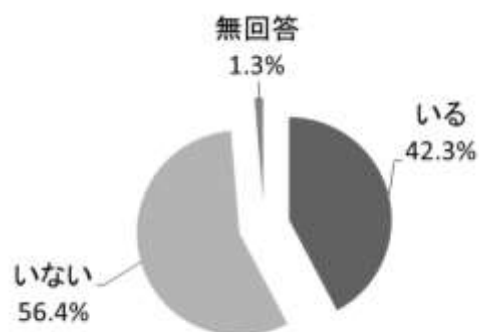
		件数	割合
1	いる	31	8.1
2	いない	347	91.1
	無回答	3	0.8
	合計	381	100.0



問6 あなたは、65 歳以上の方と同居されていますか。
(あてはまるものに ○)

1. いる 2. いない

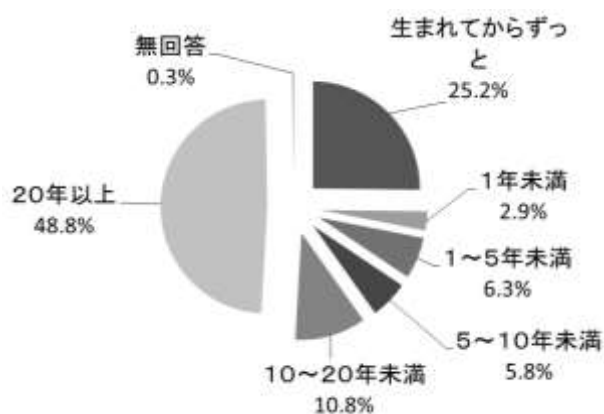
		件数	割合
1	いる	161	42.3
2	いない	215	56.4
	無回答	5	1.3
	合計	381	100.0



清水町での暮らしについて、おうかがいします。

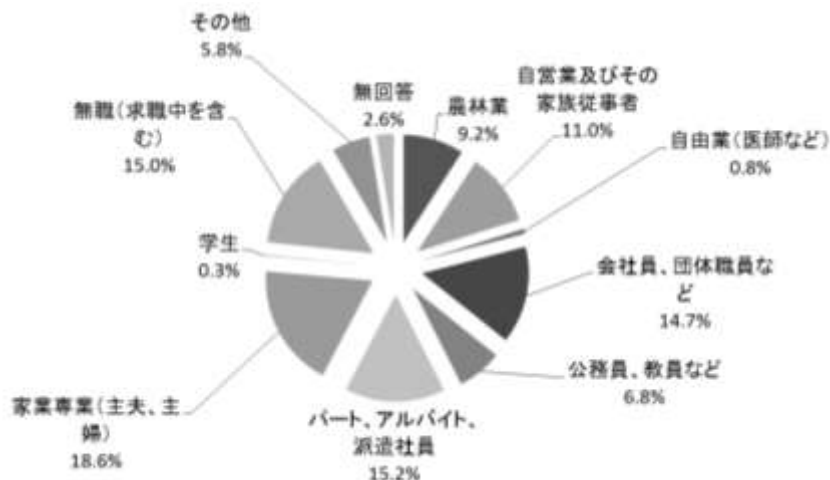
問7 清水町には、どのくらいお住まいですか。(ひとつだけに ○)

		件数	割合
1	生まれてからずっと	96	25.2
2	1 年未満	11	2.9
3	1～5 年未満	24	6.3
4	5～10 年未満	22	5.8
5	10～20 年未満	41	10.8
6	20 年以上	186	48.8
	無回答	1	0.3
	合計	381	100.0



問 8 あなたの主な仕事はどれに当てはまりますか。(ひとつにだけ ○)

		件数	割合
1	農林業	35	9.2
2	自営業及びその家族従事者	42	11.0
3	自由業（医師など）	3	0.8
4	会社員、団体職員など	56	14.7
5	公務員、教員など	26	6.8
6	パート、アルバイト、派遣社員	58	15.2
7	家業専業（主夫、主婦）	71	18.6
8	学生	1	0.3
9	無職（求職中を含む）	57	15.0
10	その他	22	5.8
	無回答	10	2.6
	合計	381	100.0



問 9 問8で「1～6」に○をつけた方におうかがいします。勤務先はどちらですか。
(ひとつにだけ ○)

1. 町内 2. 町外

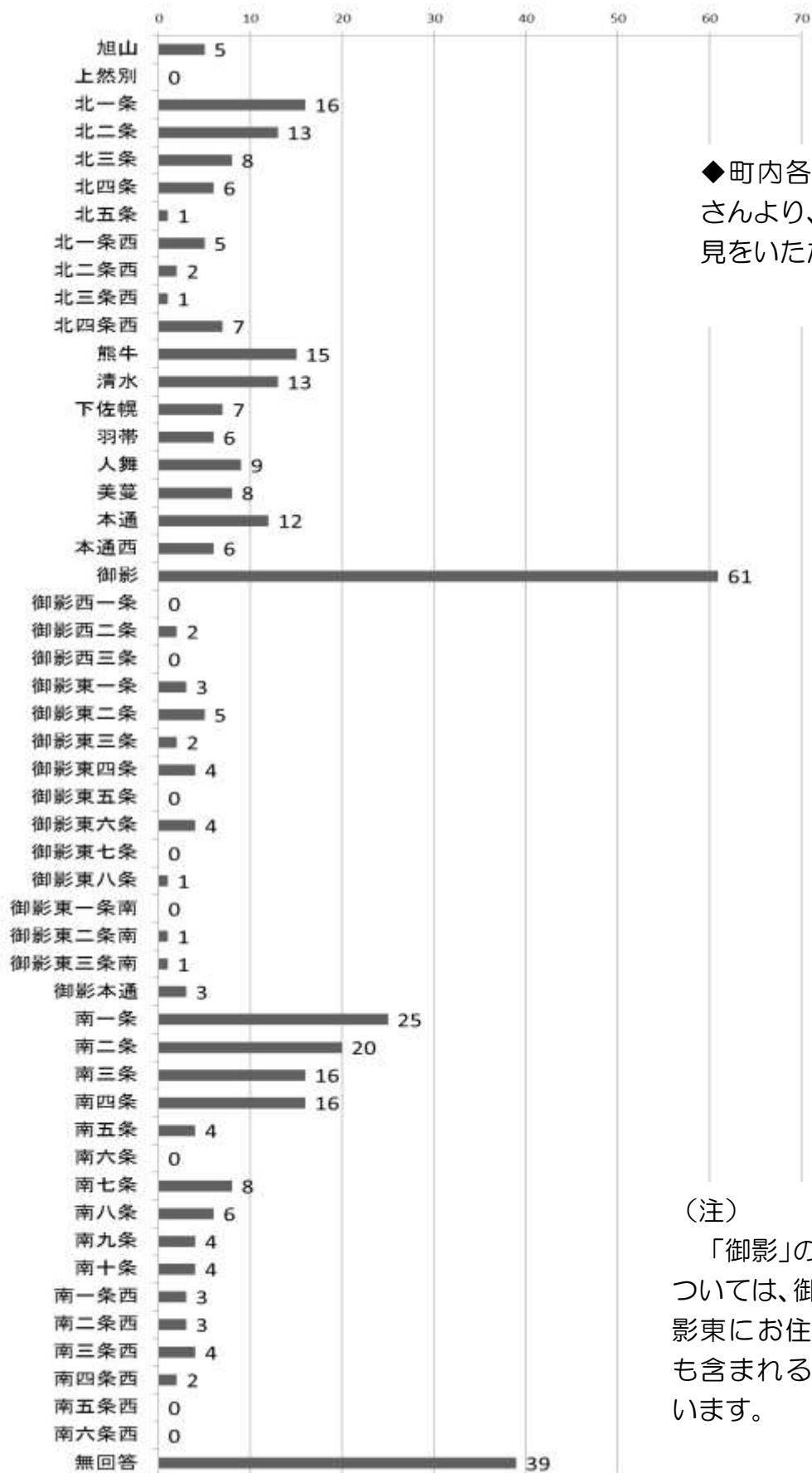
問8 「1～6」に○をつけた方 220名

		件数	割合
1	町内	180	81.8
2	町外	40	18.2
	合計	220	100.0



問10 あなたのお住まいの地域はどちらですか。

※清水町○○○ 清水町○○条□ 清水町△△○○条 など△と○と□の部分を入力してください。



◆町内各地域のみなさんより、貴重なご意見をいただきました。

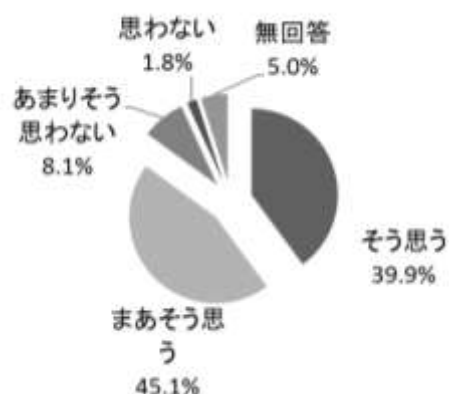
(注)

「御影」の61名については、御影西と御影東にお住まいの方も含まれると考えています。

問１１ あなたは、お住まいの地域や周辺的环境について、どのようにお考えですか。
 （各項目に○はひとつ）※この質問の地域とは、問１０の「お住まいの地域」
 としてお考えください。

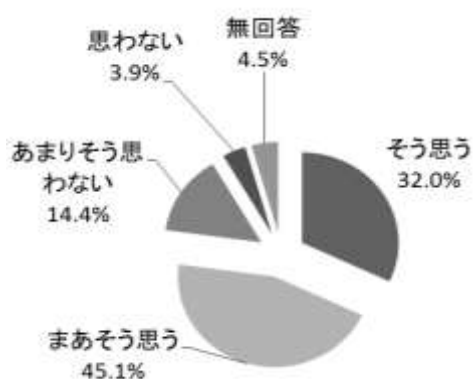
・暮らしている地域が、好きだ

		件数	割合
1	そう思う	152	39.9
2	まあそう思う	172	45.1
3	あまりそう思わない	31	8.1
4	思わない	7	1.8
	無回答	19	5.0
	合計	381	100.0



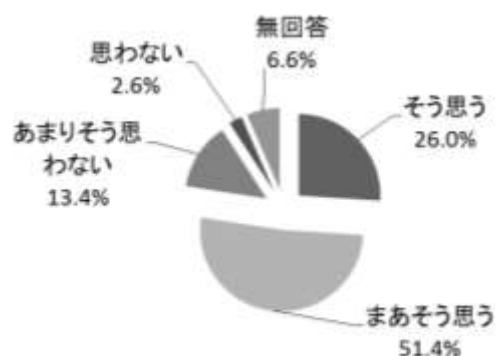
・暮らしている地域には、地域のつながり（近所付き合いや住民同士の助け合い・支え合いなど）がある

		件数	割合
1	そう思う	122	32.0
2	まあそう思う	172	45.1
3	あまりそう思わない	55	14.4
4	思わない	15	3.9
	無回答	17	4.5
	合計	381	100.0



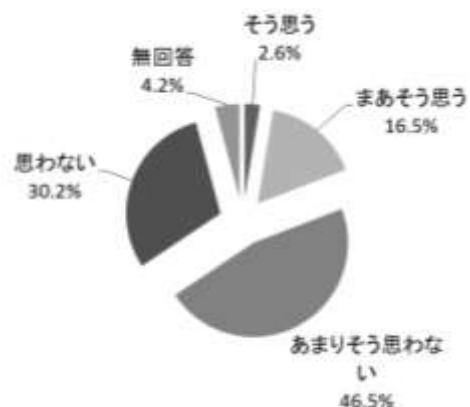
・地域のために、何か役に立ちたい

		件数	割合
1	そう思う	99	26.0
2	まあそう思う	196	51.4
3	あまりそう思わない	51	13.4
4	思わない	10	2.6
	無回答	25	6.6
	合計	381	100.0



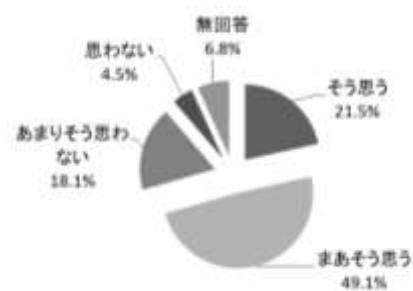
・地域の近所づきあいは、面倒だ

		件数	割合
1	そう思う	10	2.6
2	まあそう思う	63	16.5
3	あまりそう思わない	177	46.5
4	思わない	115	30.2
	無回答	16	4.2
	合計	381	100.0



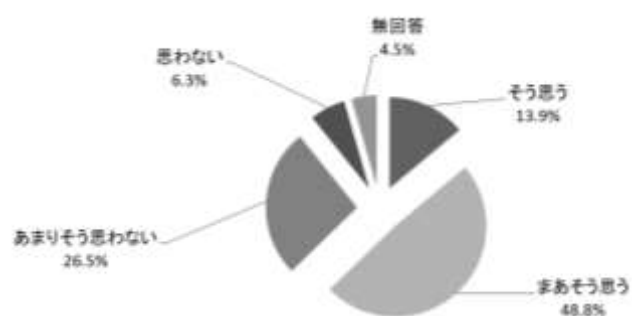
・子どもにとって住みやすい地域だ

		件数	割合
1	そう思う	82	21.5
2	まあそう思う	187	49.1
3	あまりそう思わない	69	18.1
4	思わない	17	4.5
	無回答	26	6.8
	合計	381	100.0



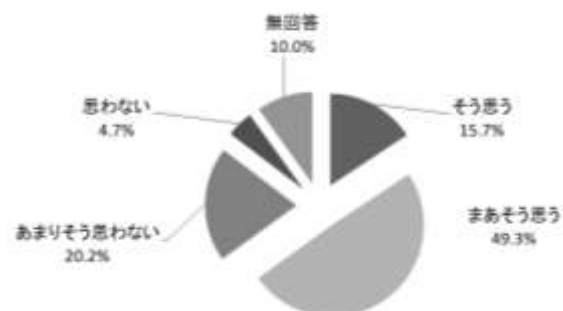
・高齢者にとって住みやすい地域だ

		件数	割合
1	そう思う	53	13.9
2	まあそう思う	186	48.8
3	あまりそう思わない	101	26.5
4	思わない	24	6.3
	無回答	17	4.5
	合計	381	100.0



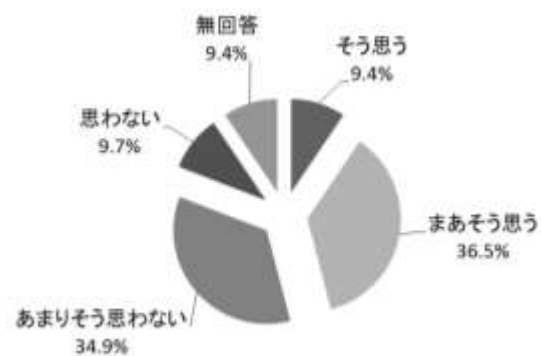
・子育てをしている親たち（母親・父親など）にとって住みやすい地域だ

		件数	割合
1	そう思う	60	15.7
2	まあそう思う	188	49.3
3	あまりそう思わない	77	20.2
4	思わない	18	4.7
	無回答	38	10.0
	合計	381	100.0



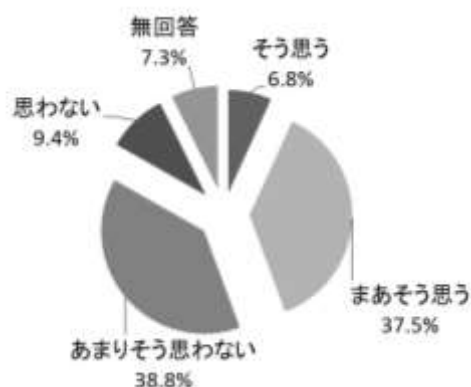
・障がい者や障がい児にとって住みやすい地域だ

		件数	割合
1	そう思う	36	9.4
2	まあそう思う	139	36.5
3	あまりそう思わない	133	34.9
4	思わない	37	9.7
	無回答	36	9.4
	合計	381	100.0



・地域行事やボランティア活動が充実している

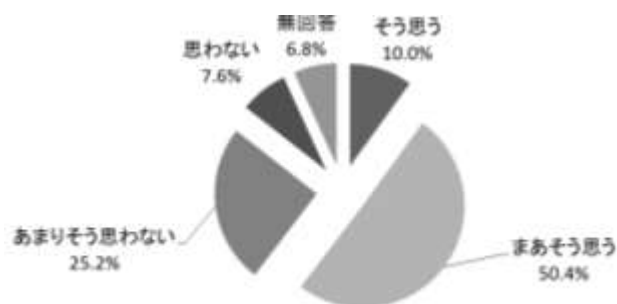
		件数	割合
1	そう思う	26	6.8
2	まあそう思う	143	37.5
3	あまりそう思わない	148	38.8
4	思わない	36	9.4
	無回答	28	7.3
	合計	381	100.0



・清水町は、福祉に力を入れている

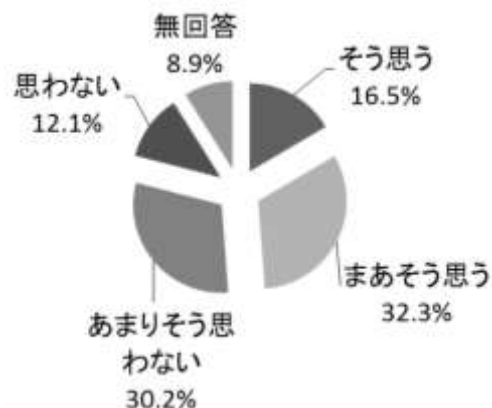
【子育て、高齢者、障がい、生活困窮者（貧困や低所得家庭）など】

		件数	割合
1	そう思う	38	10.0
2	まあそう思う	192	50.4
3	あまりそう思わない	96	25.2
4	思わない	29	7.6
	無回答	26	6.8
	合計	381	100.0



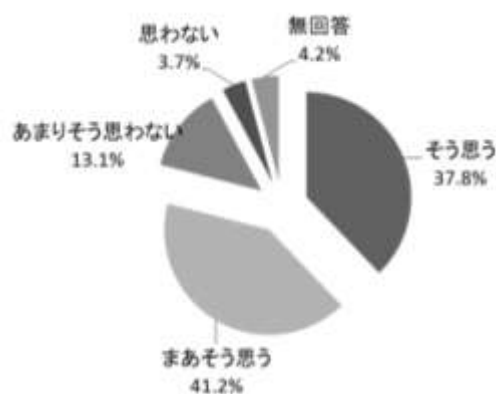
・子どもや孫にも、清水町で暮らしてほしい

		件数	割合
1	そう思う	63	16.5
2	まあそう思う	123	32.3
3	あまりそう思わない	115	30.2
4	思わない	46	12.1
	無回答	34	8.9
	合計	381	100.0



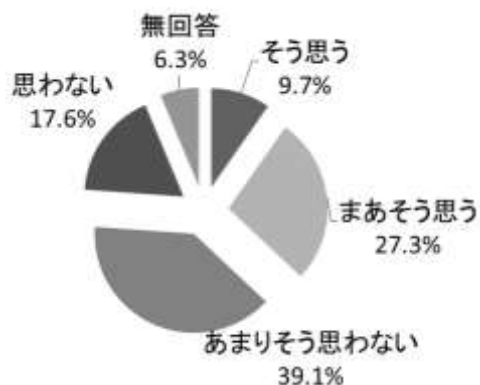
・今後も、清水町で暮らしていきたい

		件数	割合
1	そう思う	144	37.8
2	まあそう思う	157	41.2
3	あまりそう思わない	50	13.1
4	思わない	14	3.7
	無回答	16	4.2
	合計	381	100.0



・今の清水町には、魅力を感じない

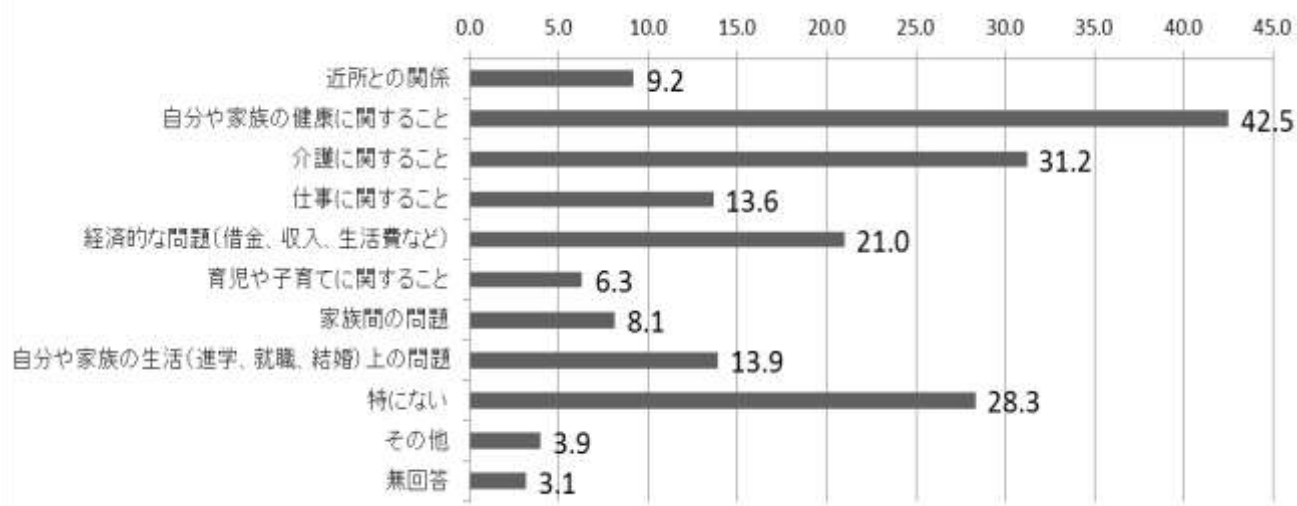
		件数	割合
1	そう思う	37	9.7
2	まあそう思う	104	27.3
3	あまりそう思わない	149	39.1
4	思わない	67	17.6
	無回答	24	6.3
	合計	381	100.0



問12 普段の暮らしで、「不安」や「悩み」はありますか。
（ あてはまるものすべてに ○ ）

◆381人中、369人の方が回答しています。無回答は12人でした。

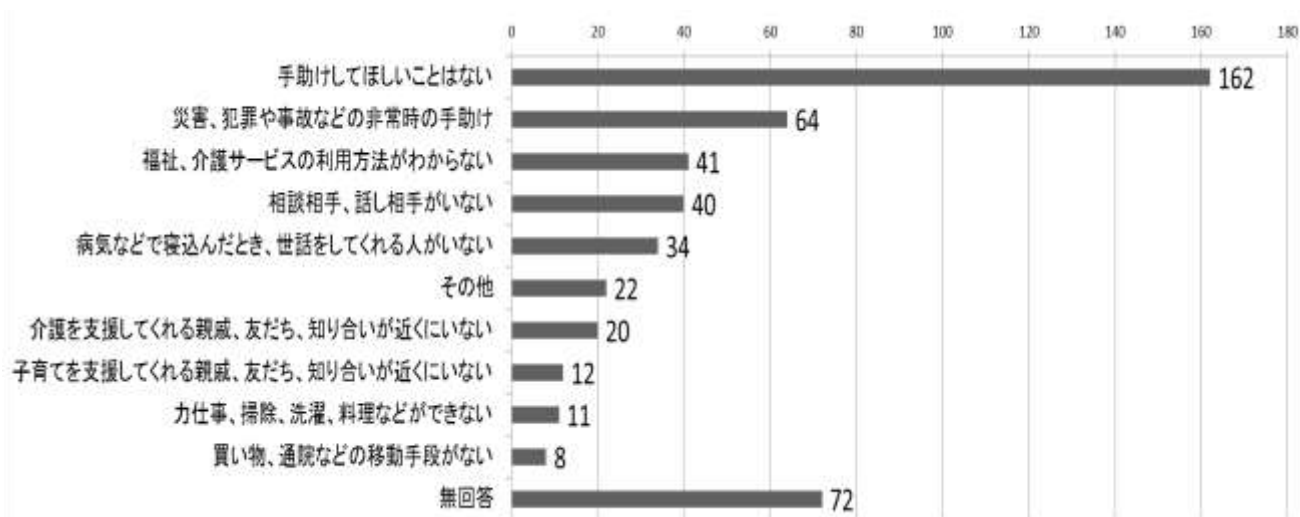
		件数	割合
1	近所との関係	35	9.2
2	自分や家族の健康に関すること	162	42.5
3	介護に関すること	119	31.2
4	仕事に関すること	52	13.6
5	経済的な問題（借金、収入、生活費など）	80	21.0
6	育児や子育てに関すること	24	6.3
7	家族間の問題	31	8.1
8	自分や家族の生活（進学、就職、結婚）上の問題	53	13.9
9	特にない	108	28.3
10	その他	15	3.9
	無回答	12	3.1



問13 普段の暮らしで、誰かに「手助けしてほしいこと」はありますか。

(あてはまるものすべてに ○)

		件数	割合
1	相談相手、話し相手がない	40	10.5
2	子育てを支援してくれる親戚、友だち、知り合いが近くにいない	12	3.1
3	介護を支援してくれる親戚、友だち、知り合いが近くにいない	20	5.2
4	病気などで寝込んだとき、世話をしてくれる人がいない	34	8.9
5	福祉、介護サービスの利用方法がわからない	41	10.8
6	災害、犯罪や事故などの非常時の手助け	64	16.8
7	力仕事、掃除、洗濯、料理などができない	11	2.9
8	買い物、通院などの移動手段がない	8	2.1
9	手助けしてほしいことはない	162	42.5
10	その他	22	5.8
	無回答	72	18.9

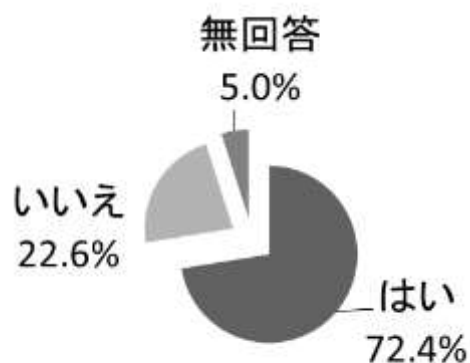


問14 あなたは、「子ども」や「高齢者」や「障がい者や障がい児」に気を配ったり、声をかけたりする（した）ことがありますか。（ひとつにだけ ○）

1. はい

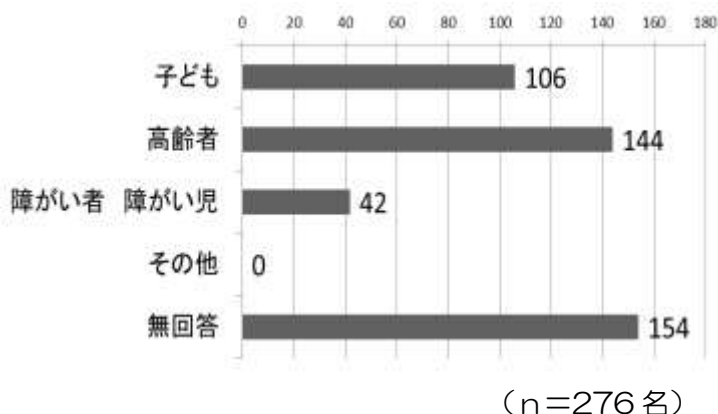
2. いいえ

		件数	割合
1	はい	276	72.4
2	いいえ	86	22.6
	無回答	19	5.0
	合計	381	100.0



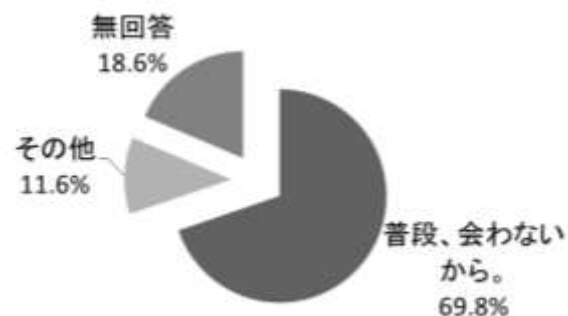
問15 問14で「1」に○をつけた方におうかがいします。
それはどのような時でしたか。

		件数	割合
1	子ども	106	27.8
2	高齢者	144	37.8
3	障がい者 障がい児	42	11.0
4	その他	0	0.0
	無回答	51	13.4
	合計	276	100.0



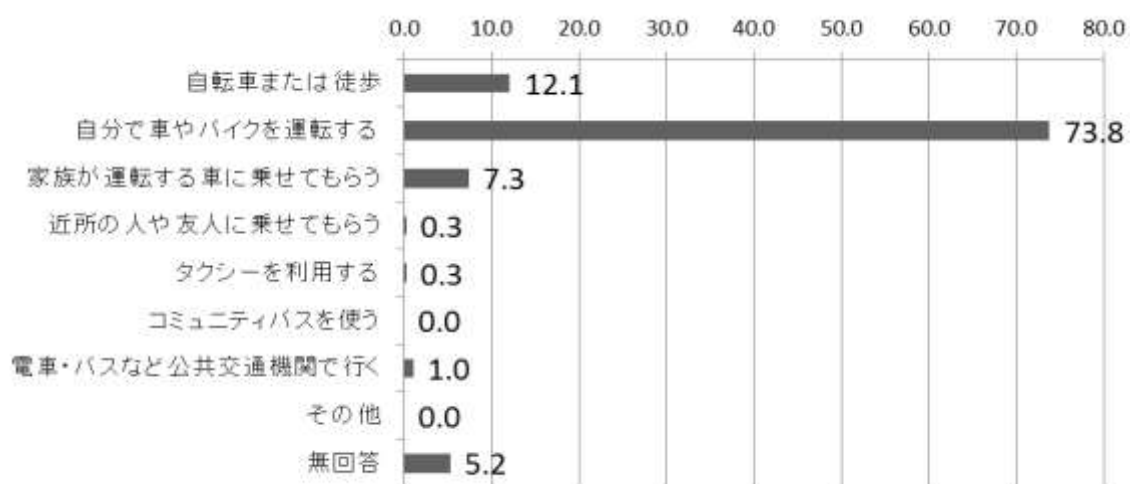
問16 問14で「2」に○をつけた方におうかがいします。
気を配ったり、声をかけないのはなぜですか。

	件数	割合
普段、会わないから。	60	69.8
その他	10	11.6
無回答	16	18.6
合計	86	100.0



問１７ あなたは、買い物や病院などに行く時に、どのような方法で移動していますか。
 （ひとつにだけ ○）

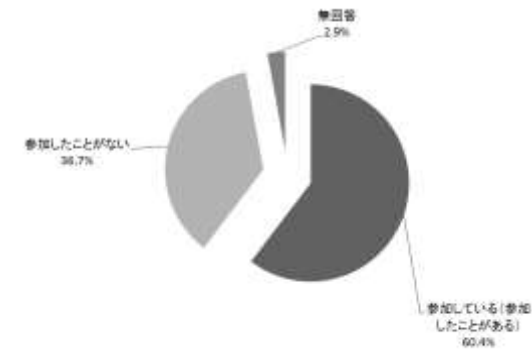
		件数	割合
1	自転車または徒歩	46	12.1
2	自分で車やバイクを運転する	281	73.8
3	家族が運転する車に乗せてもらう	28	7.3
4	近所の人や友人に乗せてもらう	1	0.3
5	タクシーを利用する	1	0.3
6	コミュニティバスを使う	0	0.0
7	電車・バスなど公共交通機関で行く	4	1.0
8	その他	0	0.0
	無回答	20	5.2
	合計	381	100.0



問18 あなたは、町内の行事やボランティアなどの活動に参加していますか。
(ひとつにだけ ○)

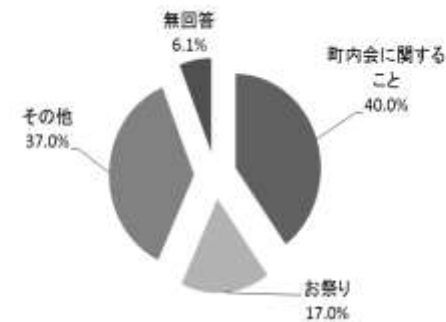
1. 参加している（参加したことがある）
2. 参加したことがない

		件数	割合
1	参加している （参加したことがある）	230	60.4
2	参加したことがない	140	36.7
	無回答	11	2.9
	合計	381	100.0



問19 問18で「1」に○をつけた方におうかがいします。
参加されている（参加したことがある）方は、どのような行事や活動ですか。

	件数	割合
町内会関係行事	92	40.0
お祭り	39	17.0
その他	85	37.0
無回答	14	6.1
合計	230	100.0



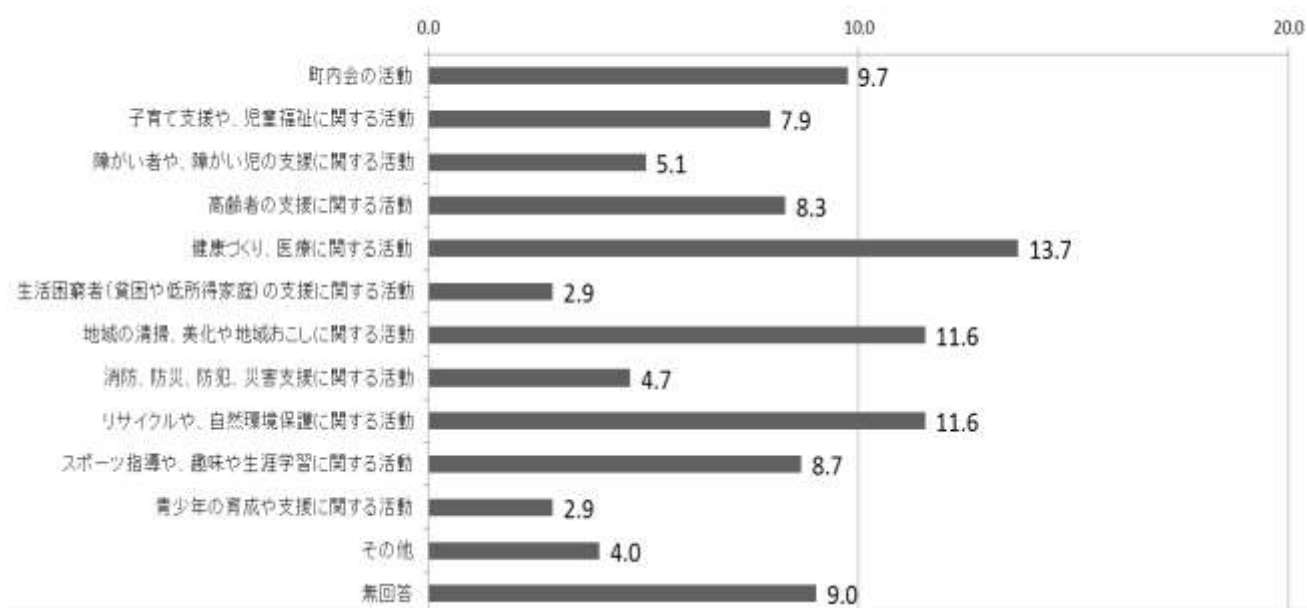
問20 問18で「2」に○をつけた方におうかがいします。

参加されていない方は、どんな行事や活動なら参加してみたいですか。

(あてはまるもの すべてに ○)

◆140人中、115人の方が回答しています。無回答は25人でした。

		件数	割合
1	町内会の活動	27	9.7
2	子育て支援や、児童福祉に関する活動	22	7.9
3	障がい者や、障がい児の支援に関する活動	14	5.1
4	高齢者の支援に関する活動	23	8.3
5	健康づくり、医療に関する活動	38	13.7
6	生活困窮者（貧困や低所得家庭）の支援に関する活動	8	2.9
7	地域の清掃、美化や地域おこしに関する活動	32	11.6
8	消防、防災、防犯、災害支援に関する活動	13	4.7
9	リサイクルや、自然環境保護に関する活動	32	11.6
10	スポーツ指導や、趣味や生涯学習に関する活動	24	8.7
11	青少年の育成や支援に関する活動	8	2.9
12	その他	11	4.0
	無回答	25	9.0

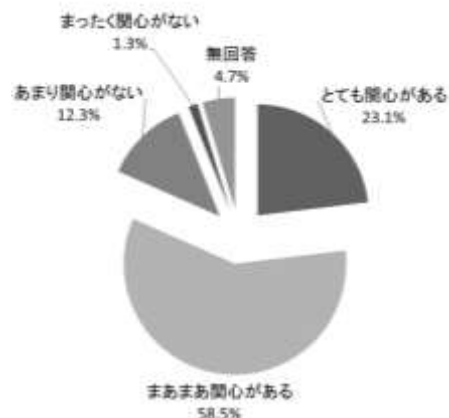


地域福祉に関することについて、おうかがいします。

問21 あなたは「福祉」に関心がありますか。(ひとつにだけ ○)

1. とても関心がある
2. まあまあ関心がある
3. あまり関心がない
4. まったく関心がない

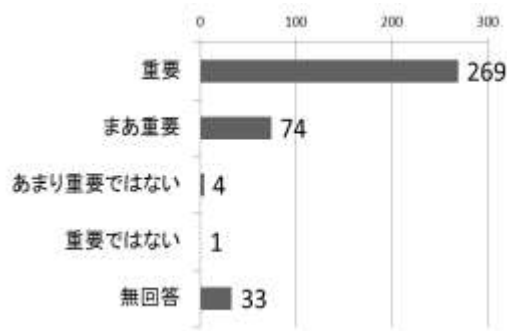
		件数	割合
1	とても関心がある	88	23.1
2	まあまあ関心がある	223	58.5
3	あまり関心がない	47	12.3
4	まったく関心がない	5	1.3
	無回答	18	4.7
	合計	381	100.0



問22 あなたが重要だと考える「福祉」はどの分野ですか。(各項目に○はひとつ)

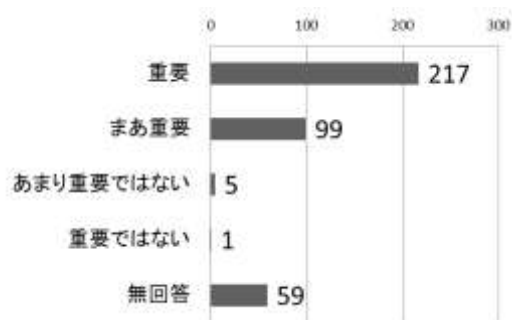
1. 医療や、健康

		件数	割合
1	重要	269	70.6
2	まあ重要	74	19.4
3	あまり重要ではない	4	1.0
4	重要ではない	1	0.3
	無回答	33	8.7
	合計	381	100.0



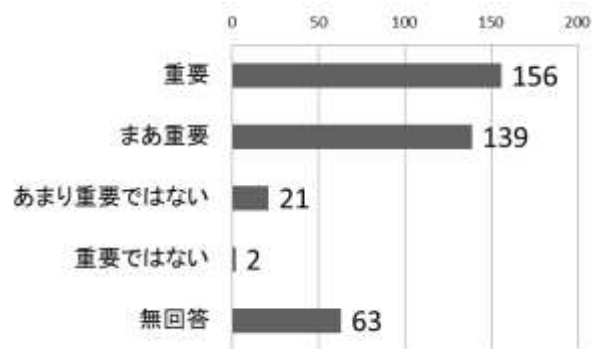
2. 障がい者や、障がい児

		件数	割合
1	重要	217	57.0
2	まあ重要	99	26.0
3	あまり重要ではない	5	1.3
4	重要ではない	1	0.3
	無回答	59	15.5
	合計	381	100.0



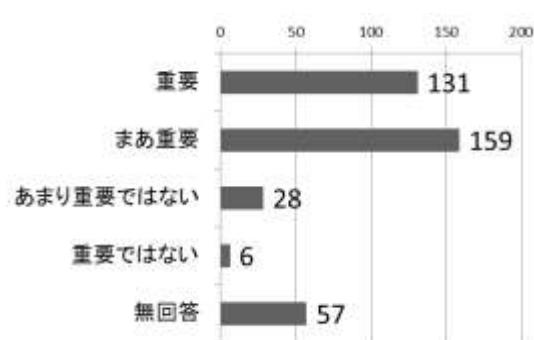
3. 子どもや、子育て中の家庭

		件数	割合
1	重要	156	40.9
2	まあ重要	139	36.5
3	あまり重要ではない	21	5.5
4	重要ではない	2	0.5
	無回答	63	16.5
	合計	381	100.0



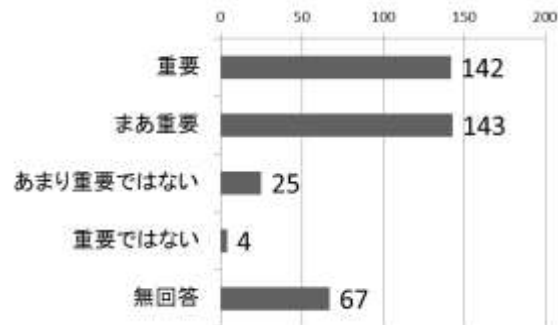
4. 生活困窮者（貧困や低所得家庭を含む）

		件数	割合
1	重要	131	34.4
2	まあ重要	159	41.7
3	あまり重要ではない	28	7.3
4	重要ではない	6	1.6
	無回答	57	15.0
	合計	381	100.0



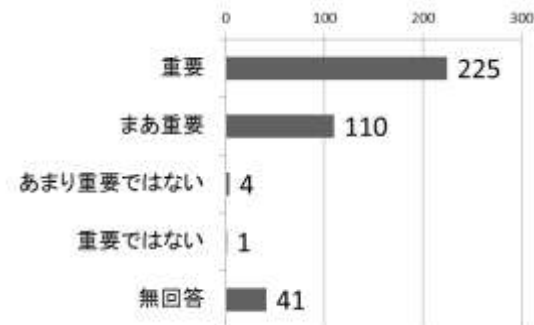
5. ひとり親家庭

		件数	割合
1	重要	142	37.3
2	まあ重要	143	37.5
3	あまり重要ではない	25	6.6
4	重要ではない	4	1.0
	無回答	67	17.6
	合計	381	100.0



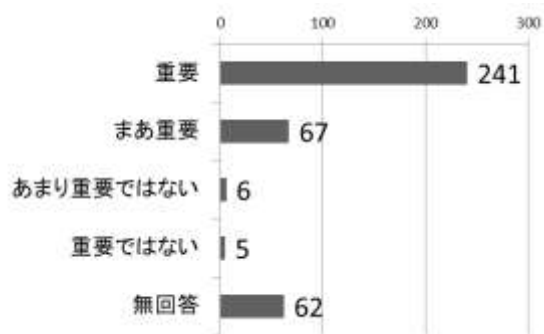
6. 高齢者

		件数	割合
1	重要	225	59.1
2	まあ重要	110	28.9
3	あまり重要ではない	4	1.0
4	重要ではない	1	0.3
	無回答	41	10.8
	合計	381	100.0



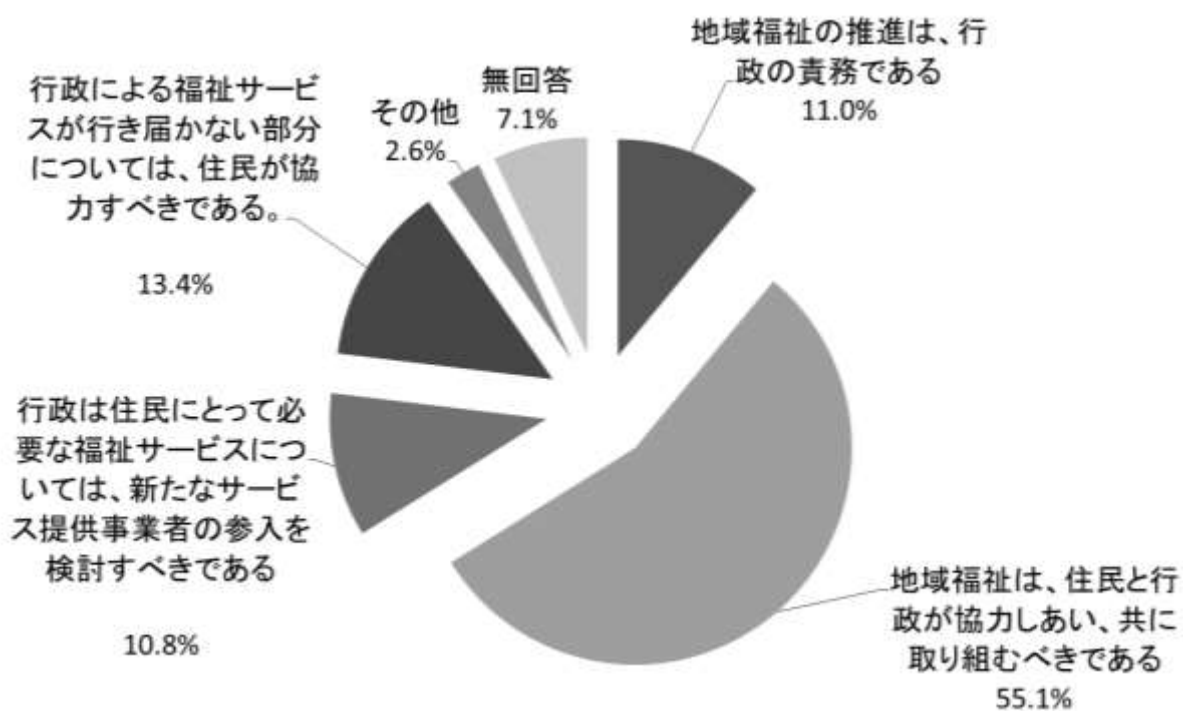
7. 虐待

		件数	割合
1	重要	241	63.3
2	まあ重要	67	17.6
3	あまり重要ではない	6	1.6
4	重要ではない	5	1.3
	無回答	62	16.3
	合計	381	100.0



問23 あなたは、地域福祉を充実させていく上で、行政はどうあるべきだと思いますか。（ひとつにだけ ○）

		件数	割合
1	地域福祉の推進は、行政の責務である	42	11.0
2	地域福祉は、住民と行政が協力しあい、共に取り組むべきである	210	55.1
3	行政は住民にとって必要な福祉サービスについては、新たなサービス提供事業者の参入を検討すべきである	41	10.8
4	行政による福祉サービスが行き届かない部分については、住民が協力すべきである。	51	13.4
5	その他	10	2.6
	無回答	27	7.1
	合計	381	100.0



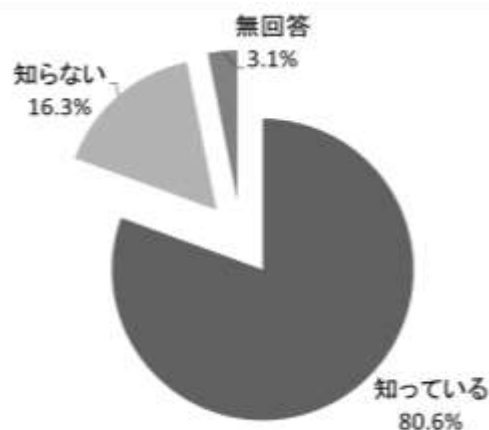
問24 清水町に社会福祉協議会があることを知っていますか。

(ひとつにだけ ○)

1. 知っている

2. 知らない

		件数	割合
1	知っている	307	80.6
2	知らない	62	16.3
	無回答	12	3.1
	合計	381	100.0



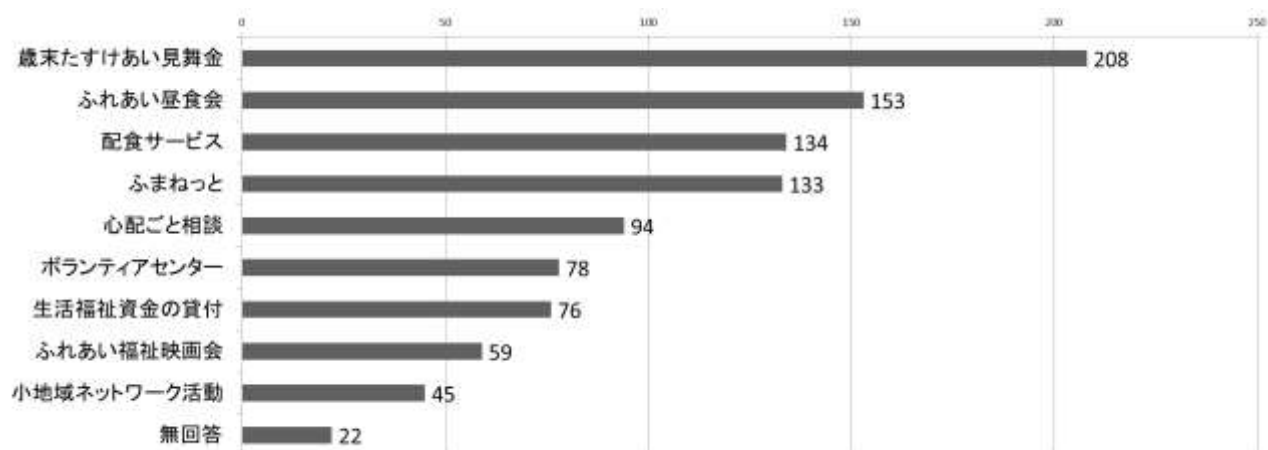
問25 問24で「1」に○をつけた方におうかがいします。

社会福祉協議会の活動で知っているものはありますか。

(あてはまるものすべてに ○)

問24 「1」回答者307名 のうち記入者285名

		件数	割合
1	小地域ネットワーク活動	45	14.7
2	ふまねっと	133	43.3
3	配食サービス	134	43.6
4	ふれあい昼食会	153	49.8
5	ふれあい福祉映画会	59	19.2
6	歳末たすけあい見舞金	208	67.8
7	生活福祉資金の貸付	76	24.8
8	心配ごと相談	94	30.6
9	ボランティアセンター	78	25.4
	無回答	22	7.2
	合計		



問26 あなたは、清水町社会福祉協議会にどのような活動を求めますか。

(あてはまるもの すべてに ○)

1. サロン活動

(子育て、障がい者や障がい児、高齢者など世代を超えて交流できる場所)

2. 防災ボランティア講座

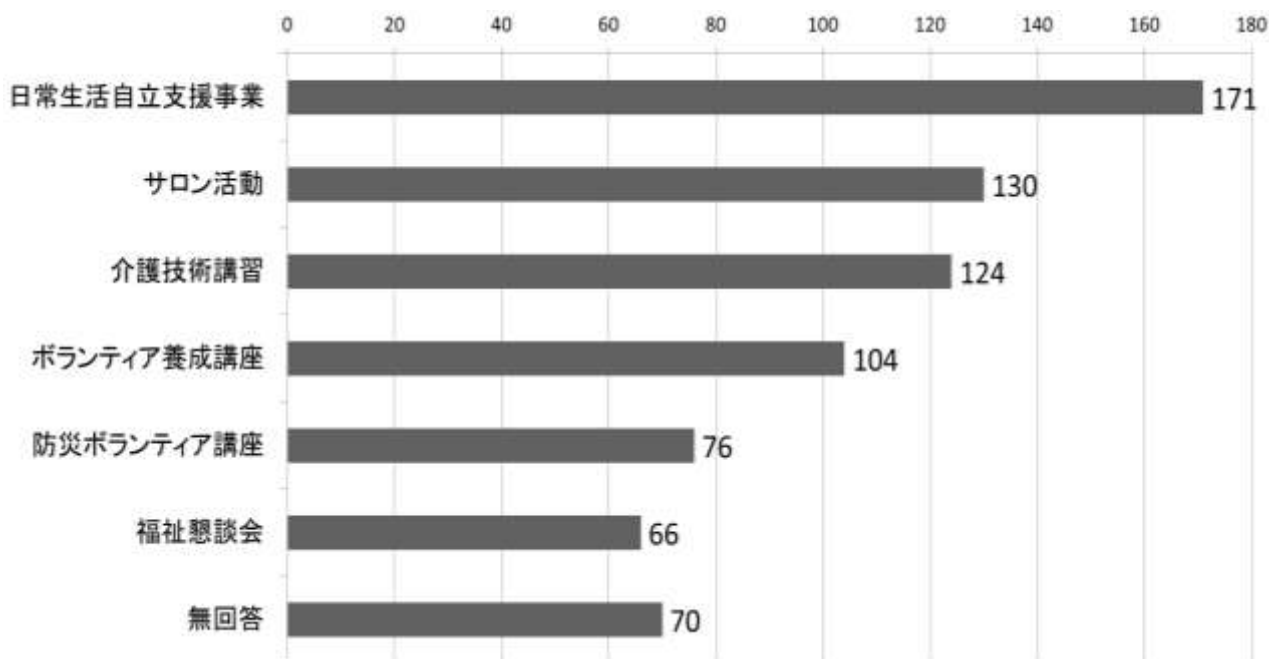
3. 福祉懇談会(地域住民や団体との交流、意見交換など)

4. 介護技術講習(家庭でもできる簡単な介護講座など)

5. ボランティア養成講座(ボランティアに関心のある方のきっかけづくりなど)

6. 日常生活自立支援事業(認知症高齢者や障がい者などの方に対する、福祉サービスの利用援助や、日常的な金銭管理のお手伝いなど)

		件数	割合
1	サロン活動	130	34.1
2	防災ボランティア講座	76	19.9
3	福祉懇談会	66	17.3
4	介護技術講習	124	32.5
5	ボランティア養成講座	104	27.3
6	日常生活自立支援事業	171	44.9
	無回答	70	18.4
	合計		

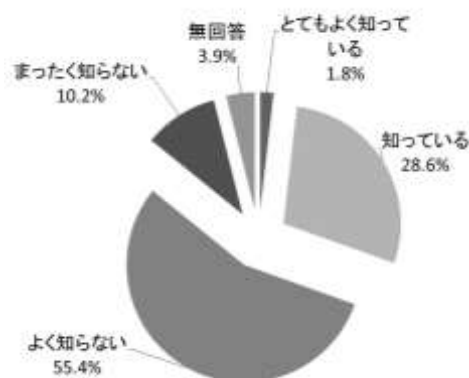


問27 清水町及び社会福祉協議会では、福祉サービスや、福祉に関する情報提供などの活動をしています。あなたはどのくらい知っていますか。

(ひとつにだけ ○)

1. とてもよく知っている 2. 知っている
3. よく知らない 4. まったく知らない

		件数	割合
1	とてもよく知っている	7	1.8
2	知っている	109	28.6
3	よく知らない	211	55.4
4	まったく知らない	39	10.2
	無回答	15	3.9
	合計	381	100.0

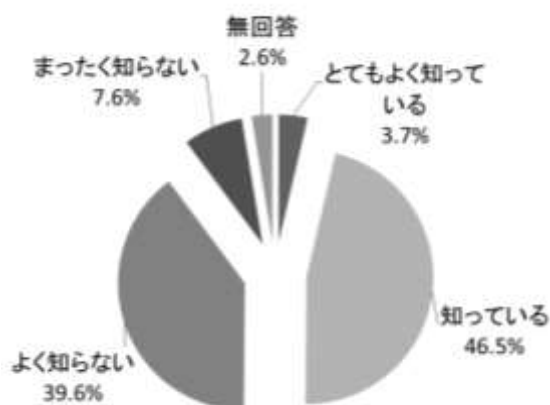


問28 あなたは民生委員・児童委員の役割を知っていますか。

(ひとつにだけ ○)

1. とてもよく知っている 2. 知っている
3. よく知らない 4. まったく知らない

		件数	割合
1	とてもよく知っている	14	3.7
2	知っている	177	46.5
3	よく知らない	151	39.6
4	まったく知らない	29	7.6
	無回答	10	2.6
	合計	381	100.0

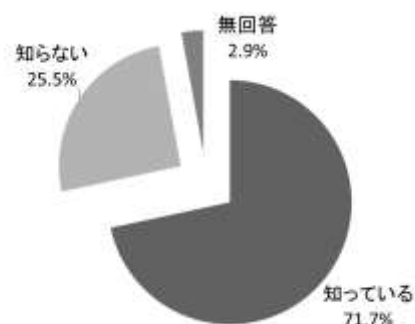


問29 あなたは災害時の避難路・避難場所を知っていますか。
（ひとつにだけ ○ ）

1. 知っている

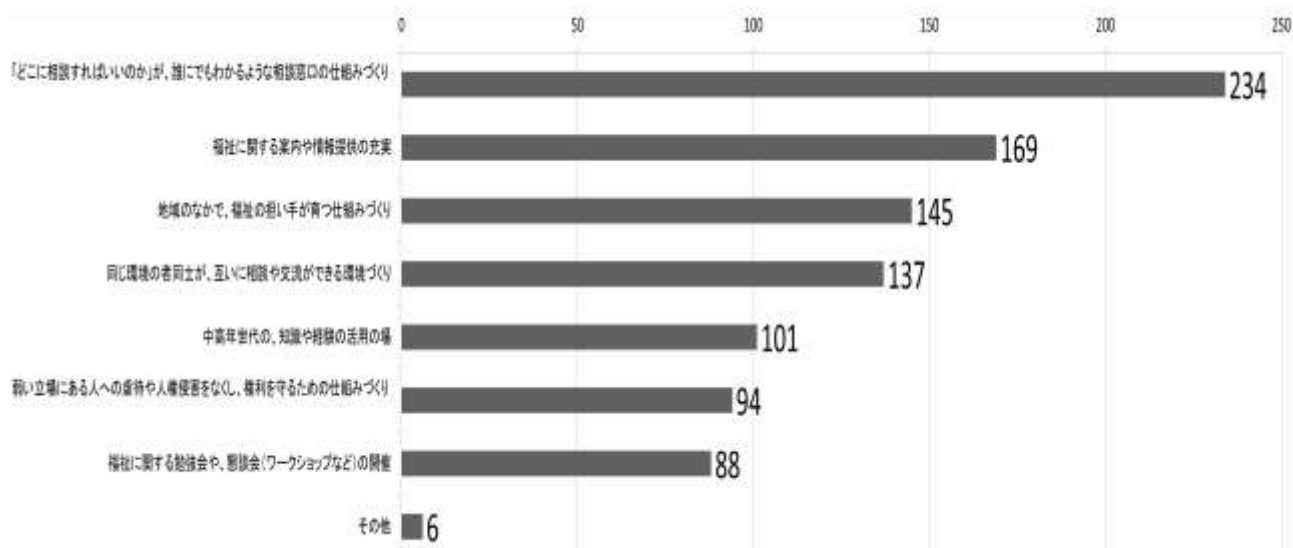
2. 知らない

		件数	割合
1	知っている	273	71.7
2	知らない	97	25.5
	無回答	11	2.9
	合計	381	100.0



問30 住民と行政と一緒に、同じ方向を向いて地域福祉を進めるには何が必要と考えますか。（あてはまるものすべてに ○ ）

		件数	割合
1	福祉に関する勉強会や、懇談会（ワークショップなど）の開催	88	23.1
2	地域のなかで、福祉の担い手が育つ仕組みづくり	145	38.1
3	同じ環境の者同士が、互いに相談や交流ができる環境づくり	137	36.0
4	福祉に関する案内や情報提供の充実	169	44.4
5	「どこに相談すればいいのか」が、誰にでもわかるような相談窓口の仕組みづくり	234	61.4
6	中高年世代の、知識や経験の活用	101	26.5
7	弱い立場にある人への虐待や人権侵害をなくし、権利を守るための仕組みづくり	94	24.7
8	その他	6	1.6
	無回答	26	6.8
	合計		



問31 最後に、あなたの暮らしのなかで、現在または5年後、10年後に向けて町に望むことや、ご提案がありましたらご自由にご記入ください。

◆今回の地域福祉計画アンケート調査の中で、「清水町の現在とこれからの地域福祉」について、115件のご意見をいただきました。

いただいたご意見は、誤字脱字を除いて基本的に原文のまま掲載しています。

1. 子供が遊ぶ所が少ないと思います。公園は何ヶ所かありますが遊具が少ない。何ヶ所も公園を作るんじゃなく1ヶ所に大きな公園がほしい。確かに近くに公園があるのはありがたいが全公園が似たような公園で楽しくない。もっと子供がハシャげるような遊具や遊び場を考えてほしい。
(20代 女性)

2. 少なくとも現在の住民福祉が継続されることを望みます。(50代 男性)

3. このままでは町がなくなってしまうという不安はあります。老後、この町に住んでいて生活(衣食住)、病気になった時の不安はものすごいです。働く場がない為、人は減っていくし、本当にどうなっていくのでしょうか…。(40代 女性)

4. 弱い住民にあたたかい行政の推進。(60代 男性)

5. 子育てしやすい環境作り、子育てに魅力のある町づくり、高齢者が住みやすい町づくり。今後は独居老人が増えます。一人でも安心して住める町づくり、老人ホームとは異なる独居者集合住宅作り等。(50代 男性)

6. 今よりもっと住みやすい清水町になっているといいです。(40代 女性)

7. 清水町役場職員に福祉その他、一般行政に関することでアイデアを持っている職員がいないと思う。職員は自分のことしか考えていないと思う。町職員も町民が何を求め、何を要求しているかを考えてアイデアなど奇抜なことでも良いので発表してほしい。
町長、職員は自分のことしか考えていないように思う。そのためには町民と一緒に考え、一緒に行動してほしいと思います。(70代 男性)

8. 一人暮らし用の住居があると、老後が安心です。(70代 男性)

9. 清水の一番いいところは自然が美しいところだと思う。これを壊さないで大事にしてほしい。(50代 女性)

10. 高齢者がふえることが目に見えるので、軽費老人ホームの充実。
(60代 女性)
11. 住民相互の理解と助け合い(協力)。(60代 男性)
12. 清水町がこのまま1万人の人口のままでいてほしい。(60代 男性)
13. 明日のことも、よくわかりません。(70代 女性)
14. 何となく淋しいです。(70代 女性)
15. まだまだ無駄使いが多い。人口が減少していく今、まず公務員みずから身を正す事、これが全てを解決するのでは。(50代 男性)
16. これから人口減少に向けて、子育て支援に最大限の力を入れることが、これからの町の重大な課題であると思う。(50代 女性)
17. まず現状はまあまあOKであると認識すること(清水町での暮らしが)次に「理想の町民生活」を思い描くこと、健康・生きがい・ストレス少 etc。そのための生涯働ける趣味を持続するためのインフラを整備する(前記した職業訓練を生涯保障する)
行政の責任者は将来の明確な理想像＝ビジョンを町民に提示すべき。そうでないからムダが多くなる。時間・人材・お金。(40代 男性)
18. 特にない。(50代 男性)
19. 健康維持のためのスポーツの充実。若い人が他地域に行かなくてもよいように、地元での職場の確保。(60代 男性)
20. 少子高齢化が進み人口が減っていきます。現在の人口を維持するために何をしなければいけないかを考える必要があります。(60代 男性)
21. 現在パートアルバイトで(週に3~4日)町外(芽室町)で仕事をしています。清水町も高齢者の方に仕事を回してもらいたい。(シルバー人材の他に)例えば私は運転が好きなので現在まだ大型ダンプの運転のパートをしています。もともと帯広に住んでいましたので、町は(一般)仕事が少ないです。(60代 男性)

22. 町と住民、民間の会社、学校などなど、より柔軟につながり合って色々な催しものをしたり、勉強会などができたらいいと思う。いろいろチャレンジできる土壌作りが大切かと思います。「きっちり成功させる」ということが全てではなく、「やってみる」ということがスタートになるかと思います。(30代 女性)
23. できるかぎり、まず人口増加対策ですね。(30代 男性)
24. 1番に街中の活性化、子どもたちの未来が明るく清水町に住みたくなる魅力のある町になってほしいです。高齢者には安心安全の町として、一生を終えたいものです。友人を呼べる町になって欲しいです。(70代 女性)
25. 年々独居世帯が増加しているが何とか孤立しない方法を考えてほしいし、孤独死に歯止めをかけてほしい。民生委員さんでも社協でも毎日の訪問が無理でしたら、毎日の電話での声かけや他愛のないお話し相手になってあげてほしいです。(50代 女性)
26. 公衆浴場（フロイデに変わるもの、もっと近くに、歩いて通える所）・町の空き地、住まなくなった宅地など安く借り受ける・親水公園（十勝川沿いに）・清水公園付近をもっと魅力あるものに・年寄りはずっとある人もいる。1口10万円程度で資金を集め運営を簡素化して、運営する方法を考え、人の集まりやすい場所を作してほしい。(70代 男性)
27. 町の人口が増えて住みやすい町に。高齢者対策の問題（独居老人、介護保険等々）。全国では子育て等における環境整備をして人口を増やしている自治体があります。（保育所、税、子どもの人数による報償金、子どもの医療費の免除等についての自治体の取り組み）もっと集中して税金を活用してはどうか。保健福祉課と社協とは違うので、もっと保健福祉課がリーダーシップをとってほしい。(60代 男性)
28. 医療の充実。(60代 男性)
29. 高齢者は多くの者が施設で終生を迎えることを希望、子や嫁の看護を希望していません。順番待ちの看護生活は望みたくない、充実した施設の建設をお願いします。(70代 女性)
30. 安い料金で介護施設に、望む人全て入れるようにしてほしい。
(50代 男性)
31. 独居老人対策。(60代 男性)

32. 老人、高齢者の福祉もある程度は必要ですが、これからは若者、子ども達の方に重点を置いて福祉関係に力をいれてほしいものです。
(60代 女性)
33. 子ども達にはボランティア、高齢者には自立の意識、中高年にはそれぞれをサポートする意識等々がなければ、いくら組織が大きくても育たないと思います。町民の意識づけがもっとも大切だと思います。
どんなに素晴らしい活用があっても、それに向かう人々の意識が本当に大切なのだと思います。(50代 女性)
34. 個人相談等で本人を十分理解できている方となら…。(60代 男性)
35. 財政難といわれているまちですが、心配なことにはもっと目を向けてほしい。あまり必要のないことに(町民にあまり関係ないもの)お金を使っているように思えます。町民の理解をもっと得るべきでは?もっと…大きな目線で。(40代 女性)
36. ①町に望むこと～御影市街地のことですが空き家が目立ち、家の周囲にゴミが山積みされたり、粗大ゴミが放置されたりが他の町村に比較してとても多いように思います。十勝で一番汚い町だと思っています。行政がもっと積極的に指導して、町をきれいにしてほしいと思います。農村部でも目立つ所が多いと思います。
②町の活性化のためにはメインになる施設が必要かと思います。例では、千年の森を中心に企業と連携してホテル、レストランを作り、冬でも観光客が集まるようにスノーモービルのコース、歩くスキーのコース、乗馬トレッキングコース等をもっと整備して、自然を生かしたレジャー施設として、ここに町の特産品の直売場を併設したら良いのではないのでしょうか。町単独ではなく、地元及び町外の企業にも声をかけ、連携していく必要があるかと思います。(70代 男性)
37. 加齢、高齢にともなう認知症や障がい者を有する家庭、家族、本人への生活支援の充実。入所利用、福祉施設、医療施設の充実と経費支援。
(60代 男性)
38. 安心して暮らせる町。(60代 女性)

39. 現在の御影には古い建物が目立ち、誰も住んでいないような建物が多いように感じます。町営の住宅も古く、そこに沢山のお年寄り…。自分が歳をとった時に、このようになるのかと思うとこの町には住めません。また子ども達にとっても公園や遊べる環境が少なく、公園遊具も古く、小さな子ども向けのものがない。
小学生などの少年団活動において、清水と御影を行き来できる送迎を考えてほしい。(30代 女性)
40. 町全体で人口が減少するなかで限界集落にならないように、検討を重ねてほしい。合併の論議も含めて冷静に取り組んでほしい(十勝一本の合併であれば)。基本は住民が安全・安心して住み続けることができる町づくりだと考えます。将来本町の人口が減少するなかで不安を感じています。
(60代 男性)
41. スーパーに行くと、(幼児用ではなく)乳幼児のショッピングカートが設置されてないお店がいくつかありました。各々のスーパーの責任だとは思いますが例えば町が設置を働きかけることはできないのかな〜?としたりしますが…無理かな!!
1歳未満(10か月未満だったかな?)のショッピングカートがほしい!!
(30代 女性)
42. 人口減を食い止めるには企業の誘致しかないでしょうね。活性化は課題。清水町は、かつての元気がない。(道の駅とか)フロイデもかなり町のダメージ。他の温泉に行くと「ニセコの様な宿泊施設はないしね」と、必ず聞かれる(清水町の住人と名乗ると)…。(60代 女性)
43. 若い世代が働ける職場が充実してほしいです。(30代 女性)
44. 商店が減少している中で、今後も地元で必要な物資が調達できる町であって欲しい。買い物難民にならない様に願う。(70代 女性)
45. 今後の未来のある、子供達が過ごしやすい町に。公園が少なく、トイレもない。子供達の遊ぶ場所が少なすぎる。スポーツする場所(町体)の老朽化が心配。スポーツする場所ならもっと新しい建物にするべき。
(30代 女性)
46. 車の運転が出来なくなったらコミュニティバスが来てくれるか心配です。町からは美蔓地区は遠いので…運賃が少しかかってもいいと思ってます。認知症になったらすぐ施設に入れるだろうか?(70代 男性)

47. 動くことが出来なくなった時、入れる施設が多くあると良いと思います。
(60代 女性)
48. これから更に高齢化、核家族化が増え一人暮らしになっていく人が多くなります。元気な時はいいですが、そうでなくなった時の身の置く所が増えてもいいかな？
清水町はとっても自然豊かな町なので、子供達が野外でおもいっきり遊べるところがあるといいな…と思います。(60代 女性)
49. できたら年金で入れる施設に入りたい。(70代 女性)
50. 社会福祉協議会の在り方を考えるべき。(40代 女性)
51. コミュニティバスの停留所の場所を増やしてほしい！！バスの色をもう少し明るくしてはどうでしょうか？ (60代 女性)
52. 行政が、今具体的に何をどの様にやっているかを広報等で情報発信していると思うが、よく目に見える方法を採用しもっとわかりやすい様にして頂きたいと希望する。「そんなのもうやっている」というかもしれませんが、多くの人に伝わってはじめて「情報」になると私は思いますし、記憶に残る伝達をお願いいたします。(60代 男性)
53. 問23に関して～ 生活保護者とか虐待などの個人的な情報を知らないために、一般人が手を差しのべられないので、行政(民生委員等)がしっかり目を配り見落としのない様にしてほしい。(60代 男性)
54. もっと若い人達に福祉に(ボランティアなど)目を向けてもらえる様な環境づくりをしなければ高齢化で活動が成り立っていかなくなるのでは？
(60代 女性)
55. 高齢者の人が歯医者とか眼科の通院の車がなくて困っています。(1週間3日しか診察しない)
小学生の部活が清水と一緒になので親は仕事しているため送迎にとっても困っています。以上は御影の困っている人の相談です。後藤歯医者さんも体が不自由の様です。清水に行くには時間が合わないので、帰り待ち時間が長く高齢者にはきついとの事です。(60代 女性)
56. 老人が一日の時間をもて余している様な話を聞きます。自由に行ける趣味の場所があるといいです。(50代 男性)

57. 町全体に一体感がなく気軽さが無い。一部分の人に偏りすぎて細かいところに行き届いていない（何に対しても）町に魅力がない・活気がない・不透明。（50代 女性）
58. これからますます人口が減少する中、福祉だけは自慢できる町作りを行ってほしい。（30代 男性）
59. 町内会の中で一人や高齢者世帯を把握し、行政や警察と情報を共有し救急・災害時に取り残される事がない様なしくみを作って欲しいと思います。又、低コストで利用出来る介護タクシーや24時間利用可能な相談窓口も必要かと思います。（50代 女性）
60. 老人ホームをもっと増やしてほしい。（60代 女性）
61. 町内会で支え合う、高齢者福祉の構築に伴った地域ボランティア組織の形成。（60代 男性）
62. 現在の年金制度は50年と半世紀を超え時代遅れです。交際費等々物価は約10倍に上がっていますが、年金下降を続け老後破産が心配です。年金制度の抜本的な改革・改善が急務であると思います。国の政治は国民の目線より上を向いているとしか言えません。若い人達から年金制度が反発を受けるのは当然です。（60代 男性）
63. 少子化対策のために子供の医療費助成の延長。中学校の統一。（小学校→中学校）と進学しても今は全く顔ぶれも変わらないし、一校にすることで新たな出会いが子供達にあるし視野を広げるきっかけとなると思う。（30代 女性）
64. 面倒見れなくなったら、すぐ入れる施設が町の中にもっと作ってほしい。（70代 女性）
65. 若い人がどんどん町外へ行ってしまっているので、その方々が学校を卒業しても戻って来たくなるような受け皿を増やしてほしいです。清水は北海道らしくて私はとても好きです。管外の方々も移住してくるぐらいです。もっともこの素晴らしさを大きくアピールして地元の方がこの事に気付ける工夫もしてみたら良いと思います。（50代 女性）

66. 町内会でも世代交代とよく年配の方々が言っていますが、なかなか次世代には任せられないと言われ清水町の年配の方は元気だと思います。お店が（スーパー）1件しかないという事は本当に不便だと感じます。お年寄りにはもっと不便でしょうね。（40代 男性）
67. 安定した電気の提供 子供の医療費負担の継続。（30代 女性）
68. 安心して暮らしていける町づくり。この町に住んで良かったと思えるそんな方向に向かってほしいです。（60代 女性）
69. 中央公園・清水公園その他の町内の小さな公園を大切にして、自然豊かな環境を保っていけるように願っています。樹木も大事に受け継いでいく事。清水町の農業、自然をみんなで守っていけるような意識をなるべくたくさんの方が持てるように。思いやりや優しさが育つ原点だと思います。（60代 女性）
70. 今は個人個人で人との関わり合いが少なく、声を掛ける事もなくなってきているので、もっと普通に助け合える環境になって欲しい。（60代 男性）
71. 旭山は上水道がなく人が移住しづらいと思うので、少しでも水道施設があればいいと思います。（40代 男性）
72. 子供が孫を連れて遊びに来たりするが孫の遊ぶ場所がない。町内に子供・高齢者がお話しする場所が欲しい。希望としてサロンの様な場所。私達の町内は一人暮らしが多いのでお話の場所が欲しいです。皆さんの希望です。（70代 女性）
73. 現状の延長でも良いと思いますが、若い人口の増加があれば総合的に良くなるのかもと思います。故郷に戻る若者、移住者の受け入れ体制を整え町の底力がアップしたら良いですね。優しい人が沢山の土地柄だから、地域福祉の充実はもっと見込まれると思います。（30代 女性）
74. 私は御影に住んでいるのですが、本町（清水地区）ではいろんな講習活動が行われているが、参加してみたいと思っても交通の便（車に乗れない）が無いので出来れば御影でも（全部とはいわないが）実施して頂けると参加者も沢山いると思います。御影の住民も健康には関心のある方が多いです。（70代 女性）

75. 福祉活動の講座を受ける時間や会場へ移動する手間を考えると、参加したくても興味本位では行きにくい。冊子を各家庭に配り理解を深め（利点や現状の問題、今後の問題など）その上で講座や催し物をするの良いのではないのでしょうか？今後も「町づくり」のために、住民行政共に手を取り合って頑張りましょう。（20代 男性）
76. 町職員の削減（人口の割に多い）。
町民税、水道・下水道の負担軽減。（60代 男性）
77. 車に乗れない高齢者・歩いて買い物に行けない高齢者が、気軽に用事を頼める便利屋の様なボランティア組織があればいいと思います。
（60代 女性）
78. 出産や町内に家を建てた時の祝い金 （20代 女性）
79. 若い世代の暮らしやすい地域づくりと、定着して生計の成り立つ産業の推進。子育てのし易い十分な福祉・助成。
しがらみに左右され、黒も白と言わざるを得ない町職員の悲哀をなくし、町民に負担と落胆を持たせない町政。
市街地のみならず、下水道の普及を進める（不潔なため）市街地の隣接地などは特に下水道の普及を進めて欲しい。（60代 女性）
80. 若い人がこの清水町で働くことができるように、魅力的な町づくりをしてほしいです。安心して子供を預けてパートで働ける場所が沢山出来ると良いなと思っています。
日赤病院のありかた（眼科などの専門的な診療科の充実を期待しています）
（60代 女性）
81. 年寄りの町の清水町になっていると思うので、例えば消防の方とかにより年配家庭の玄関周りの雪や、屋根の雪を見てくれるといった安心がある町になっていて欲しいです。（50代 女性）
82. 夫婦2人暮らしの中、健康にも問題があり不安があります。特老ホームの（将来）ことも考えることもあります、希望者が多くて思う様にいくのか…？（60代 男性）
83. 問26の1～4は活動をして最初だけで、だんだん集まらなくなると思っています（50代 女性）

84. 清水と言う町名なのに、ペケレベツ川の浄化が出来てない。自然を大切に
して心豊かに暮らしたい。 （60代 男性）
85. 人口減少による手当を早急をお願いしたい。（過疎化をいかに食い止める
か） （60代 男性）
86. 老人ホームの様な施設がもっと出来ると良いと思う。 （70代 女性）
87. 積極的に町外から住む人を受け入れる環境づくりを、早期に確立してほし
い。
企業支援をもっと充実してほしい。 （50代 男性）
88. 借金のない町にしていきたい。
現在の子供達にまた借金を残すような行政は許せない。
また、後期高齢者に対するサービスが手厚すぎるような気がする。その分
子供世代の施設を充実するようにして欲しい。 （40代 女性）
89. 町民一世帯に一区画の畑の貸与。
食と農的暮らしに関心の高い子育て世帯、団塊世帯の移住を見込める。（移
住促進のための手当金はいらない。畑貸与のため町民税増でも良い）
（40代 男性）
90. 10年後20年後の清水町を担う子ども達の教育を、関係者の方々にはし
っかりと勉強して取り組んで欲しい。
（祖父母の機嫌取りのように見せかけの出来栄えは望みません）
町の人口減前提の行政プランではなく、維持または増のためのプランをぜ
ひともお考え頂きたいと思います。 （40代 男性）
100. 福祉施設の数、高額じゃなく一人暮らしになったときに入れる施設があれ
ば助かると思います。介護認定までもいかないが、一人で生活するには不
安な時に入れる施設です。 （60代 女性）
101. 年を取っても安心して運転がしやすいよう道路を直してほしい。
危険な所がいくつかあり、高齢者にとってとても危ないと思う。
（40代 女性）
102. 働ける場所の提供（企業誘致も含め）により人口の減少を食い止めて、若
者達が残っていく清水町になるといいですね。 （60代 女性）

103. 福祉施設の増設は必要～高齢者はまだまだ増えるから。
地域の福祉館等のトイレの洋式化、手すりの設置。 （40代 男性）
104. 共に高齢で自分が障がい者であるため、食事の支度などが出来なくなった
場合に手助けを望む。 （70代 女性）
105. お墓参りのお盆彼岸などの中日という時、道路が通行止めになっていて障
害のある者は車でないと通れないので、いつもその日ではなく前後に子供
に連れて行ってもらうので残念です。いつも仏さまに申し訳ないと思って
お参りしてます。家でお参りして終わる日もあります。
（70代 女性）
106. 学童保育所で、中高年世代が子供達に得意分野の知識を伝えている町があ
るのを見ました。清水町でも色々な知識や経験を活かせる元気な町で会っ
て欲しいと思います。 （50代 女性）
107. 町民はどうしたら介護サービスが受けられるか、誰に相談したらいいのか
という事が分からないと思います。
「こういうことやっていてこんな事も相談していいですよ」という事を、
分かりやすく町民に提示していくべきだと思います。
病院に入院させればいいやという人が多すぎ。医療費のムダ使いが多すぎ
ると思います。 （40代 女性）
108. 町の中に空き家が多く寂しい。空き家の不審火など心配。大きな家に1人
か2人で住んでいるお年寄りも心配。リハウスの仲介やシェアハウスに利
用などできないでしょうか？
病院が充実すると小さい子供もお年寄りも安心して過ごせると思いま
す。 （50代 女性）
109. 介護福祉・児童福祉・発達支援について現場の人の意見を聞いて、もっと
町民に利用しやすいようにしてほしい。
施設のトップや役場の人だけで進めているように感じています。もっと現
場の意見を個別に反映してほしいと思います。上手く進んでいないように
思います。 （40代 男性）
110. 私はこの町に住んで間もないので、こういった取り組みを行っているのか
あまり知りませんが、子育てをする環境はとても整っていると思うので維
持してほしいです。 （20代 女性）

- 1 1 1. 街中のシャッターが下りている所が気になります。
清水の駅は、高齢者・車いす・ベビーカーの移動がかなりきついです。
夕方17:00時のチャイム、淋しいです。特にこの季節はもっと楽しい
曲にしてほしいです。
38号線に道の駅があったらいいですね。(牛ステーキ丼・そば・ラーメン
が食べられて、産直のものがある) (60代 女性)
- 1 1 2. 他の町とは違う特別なサービスや仕組みを作り、清水町に住みたいと思う
人を増やしたい。
福祉関係は他の地域より遅れていると思うので、もっと充実させて欲しい
です。(私には直接関係ありませんが) (40代 女性)
- 1 1 3. 住んでいないのでわからない。 (20代 女性)
- 1 1 4. 民生委員や児童委員も地域の事を把握しているつもりですが、地域と密着
している個人商店やコンビニの店主の方々にも協力していただいて、見守
りネットワーク(子育て・介護など)のようなものを考えていくのはどう
でしょうか?地域のコンビニなどは、老若男女が出入りしていて色々な情
報をもっているの、もったいないときがあります。
民生委員や児童委員と連携するのはありがたい時もあります。プライバシ
ーの問題もありますが何か良い方法ありませんか?商店の方々も情報を
聞いたら民生委員や行政につなげるとか…。
(例)小中学生等万引きや、お年寄りの安否確認など… (40代 女性)
- 1 1 5. 商・農を問わず後継者の配偶者問題に、町(行政)JA 等連絡を密にして
進めて頂きたい。 (50代 男性)

ご協力ありがとうございました。

中高生アンケート調査

清水中学校

	有効	無効
1年	59	5
3年	56	2

御影中学校

1年	23	0
3年	25	0

清水高校

町内在住学生	29	1
--------	----	---

アンケート送付者 200名

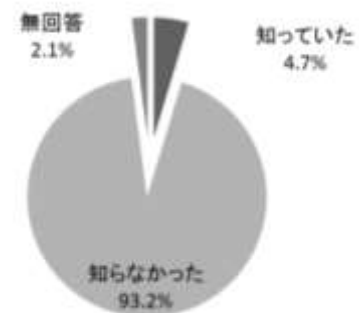
回答者 192名 8名

※無効回答は、全項目を無回答した者（白紙回答）や調査中に入院した者、8名。

まず、はじめにおうかがいします。

問1 あなたは「清水町地域福祉計画」という計画を知っていますか。
(ひとつだけに○)

	件数	割合
1 知っていた	9	4.7
2 知らなかった	179	93.2
無回答	4	2.1
合計	192	100.0



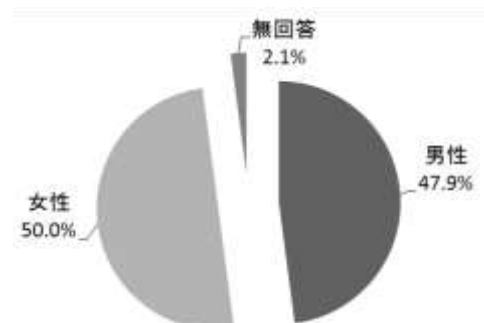
あなたのことについて、おうかがいします。

問2 あなたの性別は、どちらですか？（ひとつだけに ○）

1. 男性

2. 女性

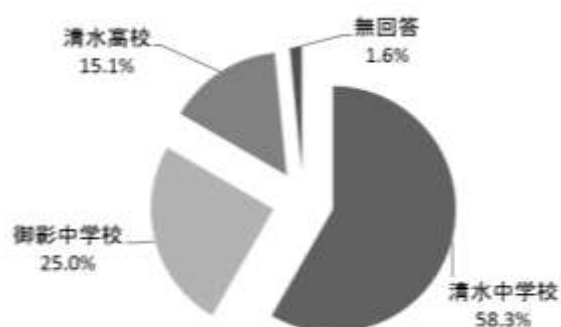
	件数	割合
1 男性	92	47.9
2 女性	96	50.0
無回答	4	2.1
合計	192	100.0



問3 あなたの中学校・高校を教えてください。（平成26年 9月1日現在）
（ひとつだけに ○）

1. 清水中学校 2. 御影中学校 3. 清水高校

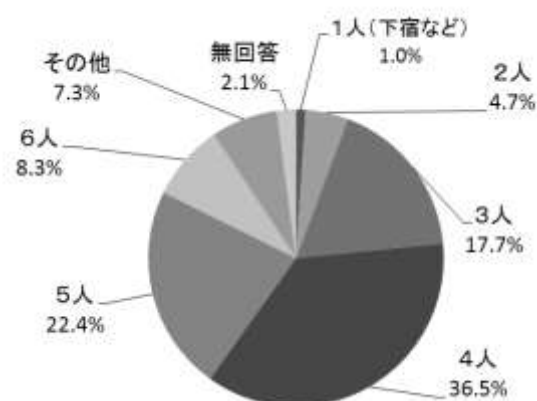
		件数	割合
1	清水中学校	112	58.3
2	御影中学校	48	25.0
3	清水高校	29	15.1
	無回答	3	1.6
	合計	192	100.0



問4 現在一緒に暮らしている家族は、あなたを含めて何人ですか。

1. 1人（下宿など） 2. 2人 3. 3人
4. 4人 5. 5人 6. 6人
7. その他（ 人）

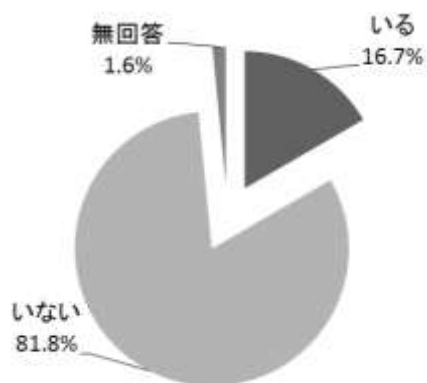
		件数	割合
1	1人（下宿など）	2	1.0
2	2人	9	4.7
3	3人	34	17.7
4	4人	70	36.5
5	5人	43	22.4
6	6人	16	8.3
7	その他	14	7.3
	無回答	4	2.1
	合計	192	100.0



問5 あなたには、小学校に入る前の弟や妹がいらっしゃいますか。
(あてはまるものに ○)

1. いる 2. いない

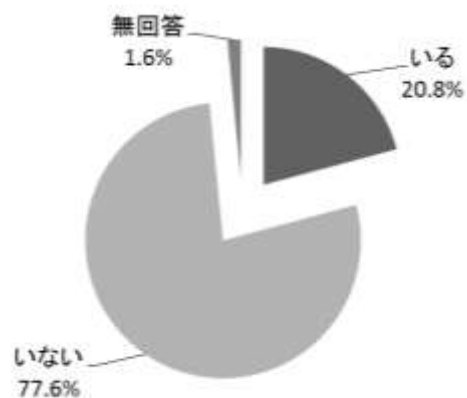
		件数	割合
1	いる	32	16.7
2	いない	157	81.8
	無回答	3	1.6
	合計	192	100.0



問6 あなたは、65 歳以上の方と同居されていますか。
(あてはまるものに ○)

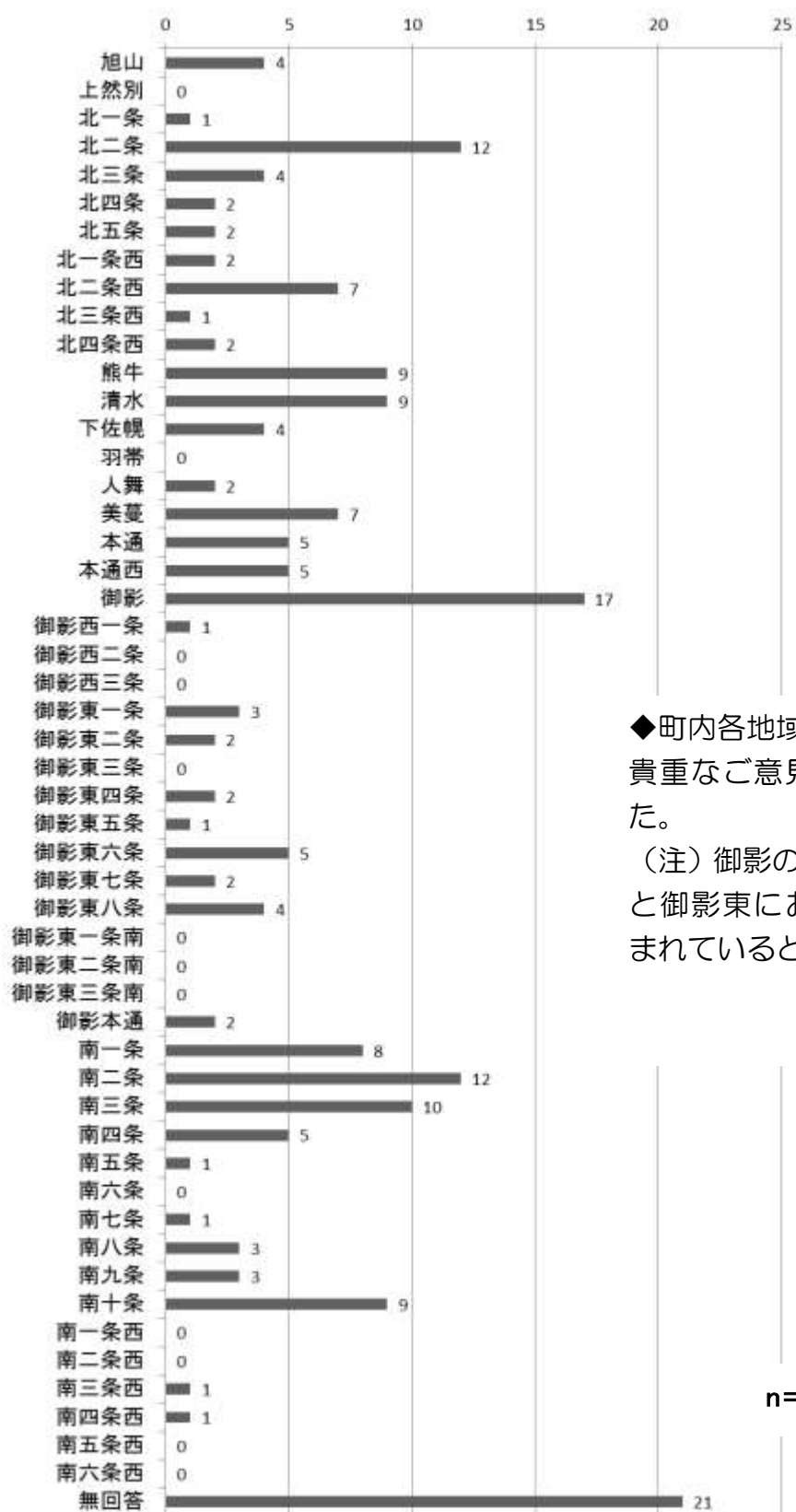
1. いる 2. いない

		件数	割合
1	いる	40	20.8
2	いない	149	77.6
	無回答	3	1.6
	合計	192	100.0



清水町での暮らしについて、おうかがいします。

問7 あなたの住まいの地域はどちらですか。



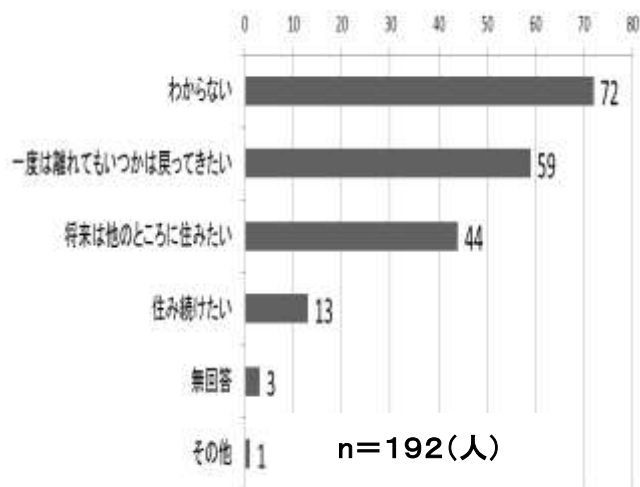
◆町内各地域のみなさんより、貴重なご意見をいただきました。

(注) 御影の17名は、御影西と御影東にお住まいの方も含まれていると考えられます。

n=192(人)

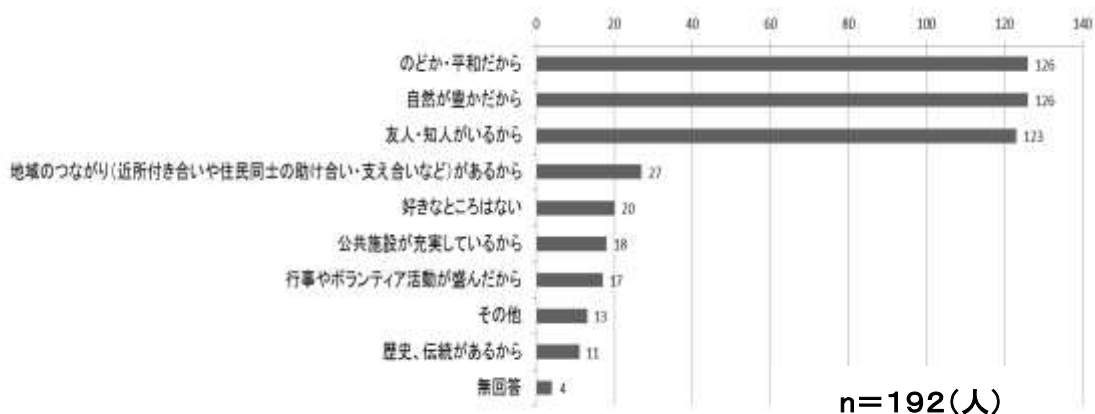
問8 あなたは、将来も清水町に住み続けたいですか。(ひとつだけに ○)

		件数	割合
1	住み続けたい	13	6.8
2	一度は離れても いつかは戻ってきたい	59	30.7
3	将来は他のところに 住みたい	44	22.9
4	わからない	72	37.5
5	その他	1	0.5
	無回答	3	1.6
	合計	192	100.0



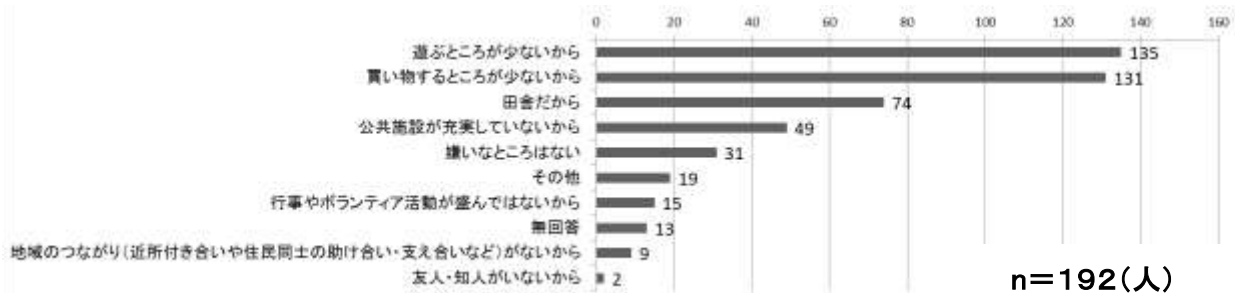
問9 あなたは清水町のどこが「好き」ですか。(あてはまるもの 3つに ○)

		件数	割合
1	友人・知人がいるから	123	64.1
2	のどか・平和だから	126	65.6
3	公共施設が充実しているから	18	9.4
4	自然が豊かだから	126	65.6
5	行事やボランティア活動が盛んだから	17	8.9
6	地域のつながり(近所付き合いや住民同士の 助け合い・支え合いなど)があるから	27	14.1
7	歴史、伝統があるから	11	5.7
8	好きなところはない	20	10.4
9	その他	13	6.8
	無回答	4	2.1
	合計		



問１０ あなたは清水町のどこが「嫌い」ですか。（あてはまるもの ３つに ○ ）

		件数	割合
1	遊ぶところが少ないから	135	70.3
2	買い物するところが少ないから	131	68.2
3	公共施設が充実していないから	49	25.5
4	田舎だから	74	38.5
5	行事やボランティア活動が盛んではないから	15	7.8
6	地域のつながり（近所付き合いや住民同士の助け合い・支え合いなど）がないから	9	4.7
7	友人・知人がいないから	2	1.0
8	嫌いなところはない	31	16.1
9	その他	19	9.9
	無回答	5	2.6
	合計	192	

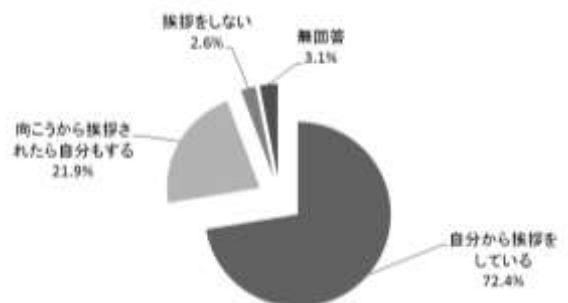


◆全体のおよそ707%の方が「遊ぶところが少ないから」「買い物するところが少ないから」と答えています。その次には「公共施設が充実していないから」という意見がありました。

問１１ あなたは次の項目について、どのようにお考えですか。
（各項目に ○はひとつ）

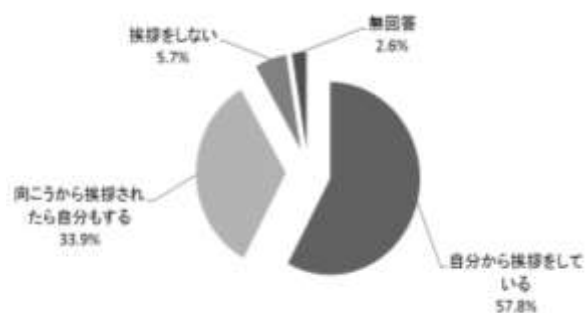
・近所のおじさん、おばさんなどの知っている人に、挨拶をする

		件数	割合
1	自分から挨拶をしている	139	72.4
2	向こうから挨拶されたら自分もする	42	21.9
3	挨拶をしない	5	2.6
	無回答	6	3.1
	合計	192	100.0



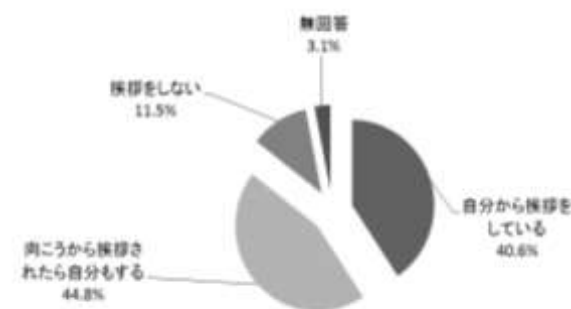
・地域のお年寄りに、挨拶をする

		件数	割合
1	自分から挨拶をしている	111	57.8
2	向こうから挨拶されたら自分もする	65	33.9
3	挨拶をしない	11	5.7
	無回答	5	2.6
	合計	192	100.0



・障害のある方に、挨拶をする

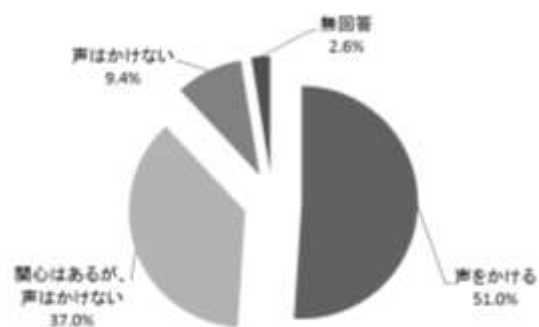
		件数	割合
1	自分から挨拶をしている	78	40.6
2	向こうから挨拶されたら自分もする	86	44.8
3	挨拶をしない	22	11.5
	無回答	6	3.1
	合計	192	100.0



問12 あなたは次の項目について、どのようにお考えですか。
(各項目に ○はひとつ)

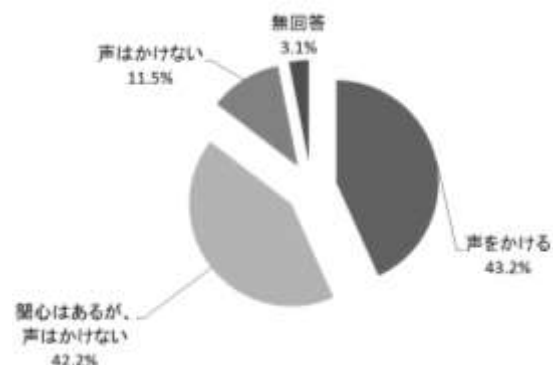
・学校で困っている子を見かけたら、声をかける

		件数	割合
1	声をかける	98	51.0
2	関心はあるが、声はかけない	71	37.0
3	声はかけない	18	9.4
	無回答	5	2.6
	合計	192	100.0



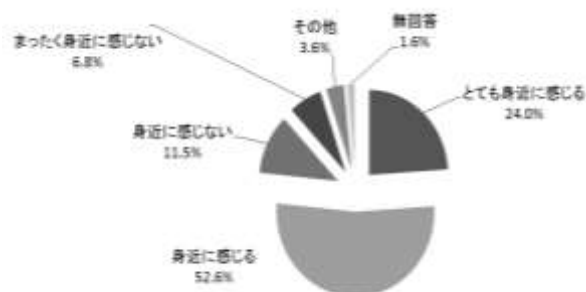
・困っているお年寄りや障害のある方を見かけたら、声をかける

		件数	割合
1	声をかける	83	43.2
2	関心はあるが、声はかけない	81	42.2
3	声はかけない	22	11.5
	無回答	6	3.1
	合計	192	100.0



問13 あなたは、お年寄りに対してどのようなイメージを持っていますか。
(ひとつだけに ○)

		件数	割合
1	とても身近に感じる	46	24.0
2	身近に感じる	101	52.6
3	身近に感じない	22	11.5
4	まったく身近に感じない	13	6.8
5	その他	7	3.6
	無回答	3	1.6
	合計	192	100.0

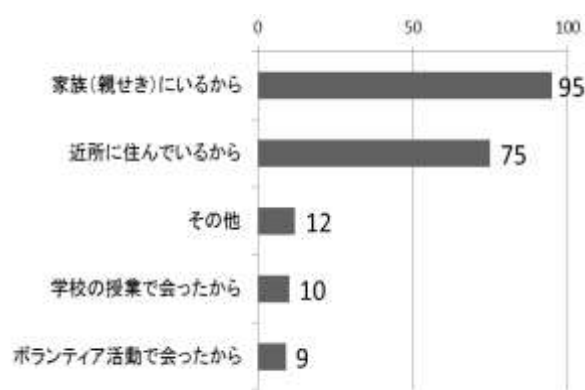


問14 問13で「1」「2」に○をつけた方に、理由をおうかがいします。
(あてはまるものすべてに ○)

1. 家族（親せき）にいるから
2. ボランティア活動で会ったから
3. 学校の授業で会ったから
4. 近所に住んでいるから
5. その他

問13で「1」「2」に○をつけた方 147名

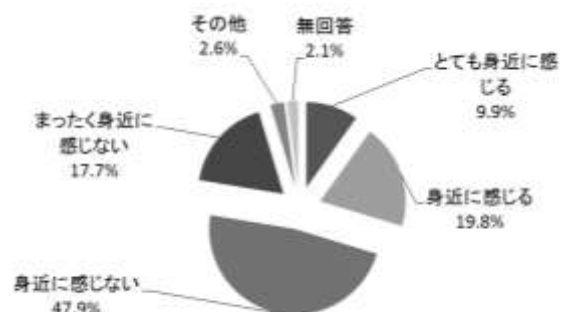
		件数	割合
1	家族（親せき）にいるから	95	64.6
2	ボランティア活動で会ったから	9	6.1
3	学校の授業で会ったから	10	6.8
4	近所に住んでいるから	75	51.0
5	その他	12	8.2
	無回答	0	0.0
	回答者数	147	



n=147(人)

問15 あなたは、障害のある方に対してどのようなイメージを持っていますか。
(ひとつだけに ○)

		件数	割合
1	とても身近に感じる	19	9.9
2	身近に感じる	38	19.8
3	身近に感じない	92	47.9
4	まったく身近に感じない	34	17.7
5	その他	5	2.6
	無回答	4	2.1
	合計	192	100.0

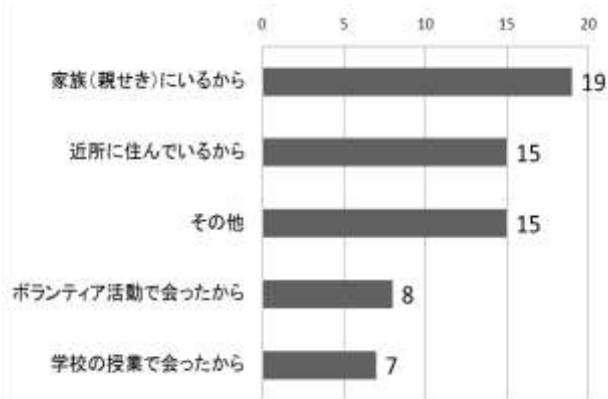


問16 問15で「1」「2」に○をつけた方に、理由をおうかがいします。
(あてはまるものすべてに ○)

1. 家族（親せき）にいるから
2. ボランティア活動で会ったから
3. 学校の授業で会ったから
4. 近所に住んでいるから
5. その他（ ）

問15で「1」「2」に○をつけた方 57名

		件数	割合
1	家族（親せき）にいるから	19	33.3
2	ボランティア活動で会ったから	8	14.0
3	学校の授業で会ったから	7	12.3
4	近所に住んでいるから	15	26.3
5	その他	15	26.3
	無回答	0	0.0
	回答者数	57	



n=57(人)

問17 あなたは、赤ちゃんといれあったことがありますか。

(ひとつだけに ○)

1. 何度も、いれあったことがある
2. いれあったことがある
3. ほとんど、いれあったことはない
4. まったく、いれあったことはない
5. その他()

		件数	割合
1	何度も、いれあったことがある	65	33.9
2	いれあったことがある	64	33.3
3	ほとんど、いれあったことはない	44	22.9
4	まったく、いれあったことはない	14	7.3
5	その他	1	0.5
	無回答	4	2.1
	合計	192	100.0



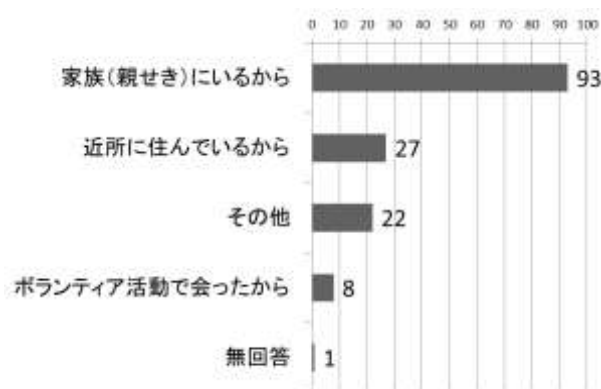
問18 問17で「1」「2」に○をつけた方に、理由をおうかがいします。

(あてはまるものすべてに ○)

1. 家族(親せき)にいるから
2. ボランティア活動で会ったから
3. 近所に住んでいるから
4. その他()

問17で「1」「2」に○をつけた方 129名

		件数	割合
1	家族(親せき)にいるから	93	71.5
2	ボランティア活動で会ったから	8	6.2
3	近所に住んでいるから	27	20.8
4	その他	22	16.9
	無回答	1	0.8
	回答者数	129	



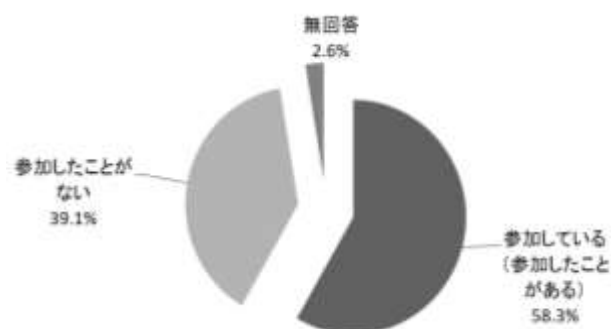
n=129(人)

問１９ あなたは、町内の行事やボランティアなどの活動に参加していますか。
（ ひとつだけに ○ ）

１．参加している（参加したことがある）

２．参加したことがない

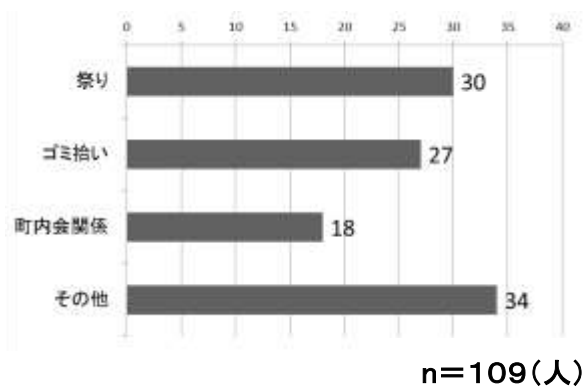
		件数	割合
１	参加している （参加したことがある）	112	58.3
２	参加したことがない	75	39.1
	無回答	5	2.6
	合計	192	100.0



問２０ 問１９で「１」に○をつけた方に、おうかがいします。
参加されている（参加したことがある）方は、どのような行事や活動ですか。

問１９で「１」に○をつけた方 １０９名

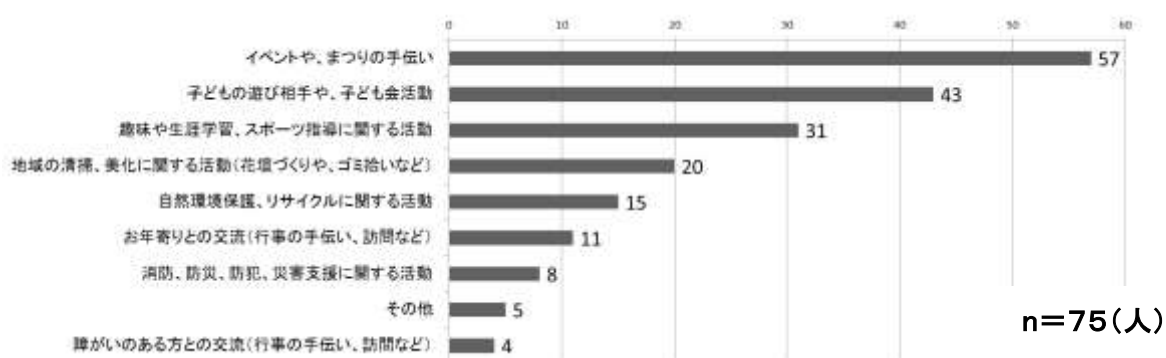
	件数	割合
祭り	30	27.5
ゴミ拾い	27	24.8
町内会関係	18	16.5
その他	34	31.2
記入者数	109	100.0



問21 問19で「2」に○をつけた方に、おうかがいします。
 参加されていない方は、どんな行事や活動なら参加してみたいですか。
 (あてはまるもの 3つに ○)

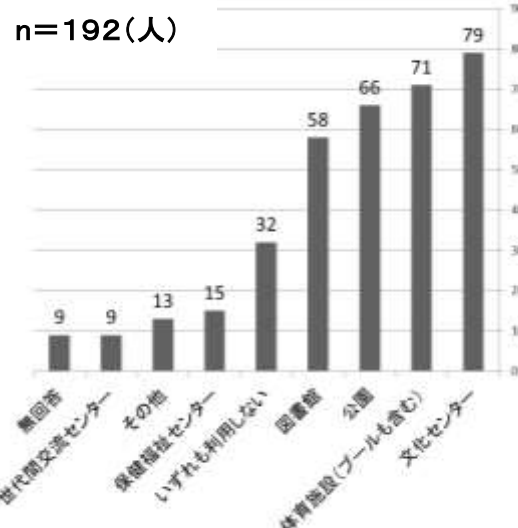
問19で「2」に○をつけた方 75名

		件数	割合
1	イベントや、まつりの手伝い	57	76.0
2	子どもの遊び相手や、子ども会活動	43	57.3
3	障がいのある方との交流(行事の手伝い、訪問など)	4	5.3
4	お年寄りとの交流(行事の手伝い、訪問など)	11	14.7
5	地域の清掃、美化に関する活動(花壇づくりや、ゴミ拾いなど)	20	26.7
6	消防、防災、防犯、災害支援に関する活動	8	10.7
7	自然環境保護、リサイクルに関する活動	15	20.0
8	趣味や生涯学習、スポーツ指導に関する活動	31	41.3
9	その他	5	6.7
	回答者数	75	



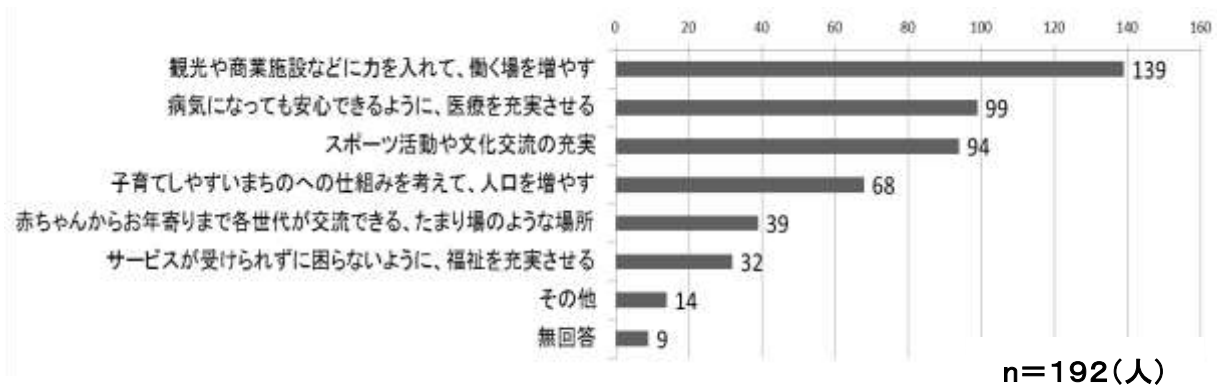
問22 あなたがよく利用する、公共施設はどこですか。
 (あてはまるもの すべてに ○)

	件数	割合
1 公園	66	34.4
2 図書館	58	30.2
3 体育施設(プールも含む)	71	37.0
4 保健福祉センター	15	7.8
5 文化センター	79	41.1
6 世代間交流センター	9	4.7
7 いずれも利用しない	32	16.7
8 その他	13	6.8
無回答	5	2.6
回答者数	192	



問23 あなたが、将来清水町に住み続けられるまちにするためには、どんなことが整備されるとよいと思いますか。（あてはまるもの3つに○）

		件数	割合
1	観光や商業施設などに力を入れて、働く場を増やす	139	72.4
2	病気になっても安心できるように、医療を充実させる	99	51.6
3	サービスが受けられずに困らないように、福祉を充実させる	32	16.7
4	子育てしやすいまちのへの仕組みを考えて、人口を増やす	68	35.4
5	スポーツ活動や文化交流の充実	94	49.0
6	赤ちゃんからお年寄りまで各世代が交流できる、たまり場のような場所	39	20.3
7	その他	14	7.3
	無回答	9	4.7
	合計	192	

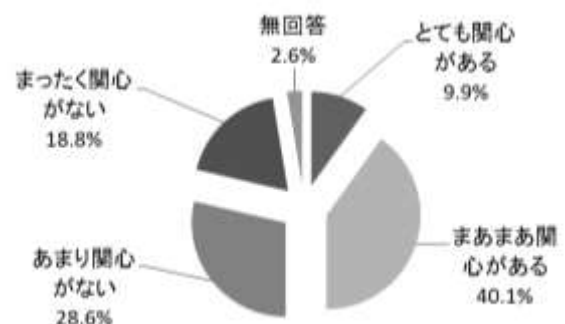


◆もっとも多いのは「観光や商業施設などに力を入れて、働く場を増やす」でした。また全体の半数にあたる51.6%の方が「病気になっても安心できる医療の充実」を望んでいます。

地域福祉に関することについて、おうかがいします。

問24 あなたは「福祉」に関心がありますか。（ひとつにだけ○）

		件数	割合
1	とても関心がある	19	9.9
2	まあまあ関心がある	77	40.1
3	あまり関心がない	55	28.6
4	まったく関心がない	36	18.8
	無回答	5	2.6
	合計	192	100.0



問25 あなたが「福祉」について知りたいこと、経験したいことはどのようなことですか。

(あてはまるもの 3つに ○)

		件数	割合
1	福祉の基礎的なこと	113	58.9
2	福祉の制度について	75	39.1
3	福祉の仕事について	85	44.3
4	お年寄りや障がいのある人の生活を、疑似体験すること	30	15.6
5	介護の技術や方法について	39	20.3
6	手話や点字について	51	26.6
7	お年寄りや障がいのある方が、利用したり、生活している施設などを見学すること	19	9.9
8	お年寄りや障がいのある方と、交流すること	15	7.8
9	保育所や幼稚園などで乳幼児と話をしたり、遊んだりすること	59	30.7
10	まちに出て、道路の歩きやすさや使いやすさなどを調べること	24	12.5
11	その他	9	4.7
	無回答	8	4.2
	合計	192	

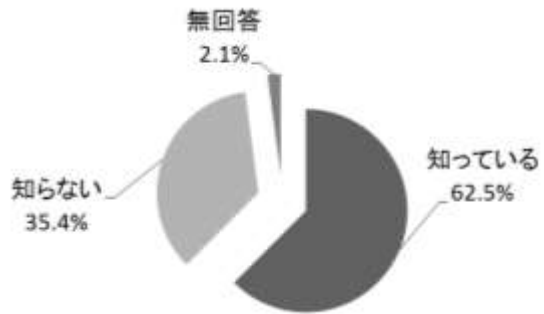


問26 あなたは災害時の避難路・避難場所を知っていますか。
（ひとつにだけ ○）

1. 知っている

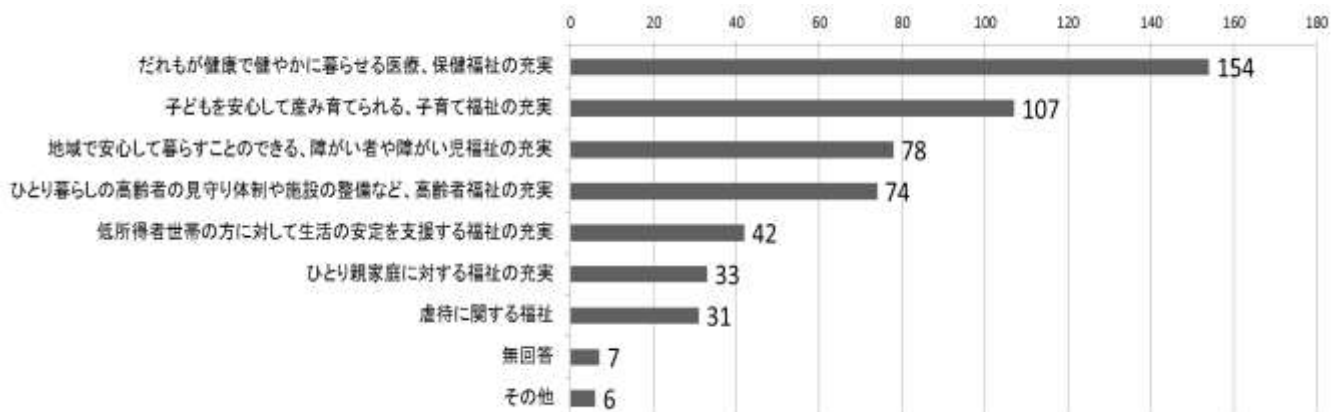
2. 知らない

		件数	割合
1	知っている	120	62.5
2	知らない	68	35.4
	無回答	4	2.1
	合計	192	100.0



問27 みんなが住み慣れた地域で、安心して暮らすためにはどのような「福祉」が必要と考えますか。（あてはまるもの 3つに ○）

		件数	割合
1	だれもが健康で健やかに暮らせる医療、保健福祉の充実	154	80.2
2	地域で安心して暮らすことのできる、障がい者や障がい児福祉の充実	78	40.6
3	子どもを安心して産み育てられる、子育て福祉の充実	107	55.7
4	低所得者世帯の方に対して生活の安定を支援する福祉の充実	42	21.9
5	ひとり親家庭に対する福祉の充実	33	17.2
6	ひとり暮らしの高齢者の見守り体制や施設の整備など、高齢者福祉の充実	74	38.5
7	虐待に関する福祉	31	16.1
8	その他	6	3.1
	無回答	7	3.6
	合計		



問28 最後に、あなたの暮らしのなかで、現在または5年後、10年後に向けて町に望むことや、ご提案がありましたらご自由にご記入ください。

◆今回の地域福祉計画アンケート調査の中で、「清水町の現在とこれからの地域福祉」について68件のご意見をいただきました。
いただいたご意見は、誤字脱字を除いて基本的に原文のまま掲載していません。

～ 清水中学校 1年生 23名 ～

1. 町内に街灯をつけてほしい→暗くて不便。
将棋や碁が出来る所をつくってほしい。
清水町のシンボルとなる高い建物を作ってほしい。
2. コストコをつくる。
ラウンドワンをつくる。
有明の芝を、綺麗にしてほしい。
公園を増やす（でかいもの）
焼肉店を増やす。
ホビーズ山田の商品を増やし、営業時間をもうちょっと遅くしてほしい。
新しい映画を早く上映してほしい。
砂利を道路にしてほしい。
清水町体育館でサッカーカーをできるようにしてほしい。
3. このまま自然を壊さずに、そっとしていながら暮らして行ってほしい。
4. ローソン&介護施設。
5. 今と一緒に、のどかで平和にしてほしい。
6. とにかく、自然を残してほしい。
7. （基本的に、今のままでいいと思うが）緑がだんだん減ってきていると思うし、若者が働きたいと思える職場がないから、もう少し増やしてほしい。
今は使っていないような建物がたくさんあり、小さな子供達が勝手に入ったりしているので、何とかしてほしいというのが私の思いです。
お年寄りの方たちが、一人で歩いていたりなどとても危険です。

8. 街灯を増やす。
家の前を舗装にする。
地下鉄、ビルをつくる。
自衛隊の駐屯地をつくる。
9. 立派なホテルやデパート、観光出来そうなものをたくさん作ると、人もたくさん来てくれるし、元から住んでる人も、一生清水にいたいと思う。
病気になっても大丈夫なように、病院を立派にする。
10. 巨大なスキー場・道の駅・地下鉄・清水ドームをつくる。
XEBIO・コストコ・アニメイト・コンビニ・ドンキ・インディアン・100満ボルト・大きな本屋をつくり、宿泊施設・ごはん屋をもっと増やす。
もっと学校をきれいにし、病院をでかくする。
11. ホテルや観光やデパートを、増やしてほしい。
12. たくさんの人が利用できる建物（本屋スキー場）をつくってほしいです。
部活などで行けないので、図書館をもっと夜遅くまで開けてほしいです。
13. もっといろいろな建物を建ててくれたら、いろいろな所から観光に来てくれると思う（アニメイト・道の駅・スキー場・大きな本屋さんなど）
14. アニメイトをつくる。
15. プールの改修（虫などが入ってきていて不衛生）
16. お店を増やして、にぎやかにすること。
ゴミを捨てる人が、いなくなるようになればいいということ。（自然を壊さないように）
17. 100満ボルト・ヤマダ電器を建ててほしい。
ボーリング場・スキー場・大きなゲームセンター・タータンの陸上競技場・水族館・動物園・遊園地・アスレチックがたくさんある公園・空港・アニメイト・バスケットショップがほしい。
街灯をもっと増やしてほしい。
18. 今とあまり変わらないでほしい。でも、コストコはあったらいい。

19. 部室が、きれいになっているといい。
グラウンドが、タータンになっているといい。それか芝生・学校を、長方形に
してほしい。
街灯を、増やしてほしい（夜がこわい）
ゴミがなくなっていて、花で満ちあふれて、笑顔がいっぱいある清水町にし
てほしい。
20. ゴミ拾いの活動を増やしたりして、もっときれいにしてほしい。
観光施設をもっと増やして、観光客を増やしてほしい。
図書館を、夜まで開けてほしい。
大きい公園・アニメイトがほしい。
街灯を、増やしてほしい。
21. アニメイトがあったらうれしいです。外食ができる所を、増やしてほしい。
22. このままで良いと思う。
23. 店がどの地域にも、まんべんなくあってほしい。

～ 御影中学校 1年生 12名 ～

1. 田舎という事もあって、買い物や公共施設が不足しているように感じます。
2. もう少し人口が増えて、色々な交流をしていくことだと思います。
3. 強いて言えば、改善センターの本をもっと増やしてほしい。
4. 小中学生の遊ぶ場所を（安全な）増やしてほしいです。改善センターぐら
いしかないので困ります。
5. お店や遊び場などが減ってきているので、増やしたらいいと思います。
6. 中学校（清水）のグラウンドを、芝生にしてほしい。
7. 私が服など買う時に困っているので、服屋さんなどを増やしてほしい。

8. もっと、賑やかな町になってほしい。
9. 祭りなどのイベントで、小中校生が出来るイベントを増やしていけたら、楽しいと思います。
10. 人口を、もっと増やす。
11. 出来ればシャッター商店街の店を、他の店にしたらいいと思いました。
12. 人口を増やしていく。デパートを建てる。

～ 清水中学校 3年生 17名 ～

1. よりよい、きれいな町にできたら、うれしい。
2. 公園にバスケットコートとゴール、ボーリングセンター、本屋、大型ショッピングセンター（イオン・イトーヨーカドーなど）、レンタル屋（ツタヤ・ゲオなど）を設置してほしい。
3. 高齢者の方や障がいがある方達が、安心してそして幸せに暮らせる町にしてほしい。清水町の良い所を、いっぱい紹介してあげて下さい。
4. 働けるのに働いていない人に、生活保護を与えるのをもっと必要最低限にするべきである。
5. カラオケや、服や、文房具などが売っている大きなお店がほしい。
6. 人口がこれ以上減らないよう、子供を育てやすい環境などをつくればよい。
7. 若い人が住みやすいよう、お店を増やしてほしい。
8. 大型ショッピングモールがあると、常広まで行くお金がかからないし、ガソリンのお金もかからないから、あるととても便利ー
9. イオンなどの大きな施設を、つくってほしい。
10. 働く場所の増加をお願いします。若者が買い物をしやすい、商店街にしてほしい（本屋・服屋などがあればいいです）

- 1 1. 夜、帰る時に電灯が少なく前が見えないので、電灯を増やしてほしい。
- 1 2. 第一次産業と、より密接に関わる教育をしたらいいと思います。
現在は、酪農家の方を招いての講演会はやっていますが、データーはわかりませんが、自らがやろうとは思わない状況なので、農業に携わりたいと思わせるようなことをしないと、清水町の第一次産業は有名なのにもったいないと思います。
私は親と何故、清水高校は酪農科・農業科がなくなったのかについて、たびたび議論をかわします。ヘルパーさんの見学に清高生が来ても、その仕事内容を見たり知ったりすると、肉体労働が多いせいかわかりませんが「自分には、やっぱりできなさそうです」とあきらめる人も、少なくないという話を聞きました。
私の家では、両親しか働き手がおらず働き手がほしいのですが、人手不足であまり人がいないので、高校等で昔みたいに酪農科みたいなのがあれば、即戦力で雇いたいという話をしていました。農業に興味を持ち、手に職をつけるような教育・行事・部活等なんでもいいので、働き口はあると思うので、農業ができる人を、育ててくれるとありがたいです。逆に第一次産業をほっておいて、サービス業・加工業の方を育てても、就職が決まらないとかいっても、第一次産業は、人を必要としていますからね。なんか今の私の家の状況や、社会の状況を見ててもどかしく思います。長くなり汚字で、言葉も崩れてしまいすみませんでした。
- 1 3. いろいろな物が買えるお店を、増やして欲しいです。服などが買える店があると、帯広まで行く必要がなくなるので良いと思います。
- 1 4. お年寄りや小学生の事だけではなく、中学生の事にも力を入れてほしい。
- 1 5. 年々、人口が減少してきている今。大型のショッピングモールなどをつくっても、意味がないと私は思います。高齢者の数の方が、割合が高いです。清水という町はとてもいい町ですが、小さい町です。この先、よりよい町にするためには、地域の交流をもっと増やすといいと思います。
もう使われなくなった建物がサビていて、歩いているととても目立ちます。そこのところにも、みなさんに少し目を向けていただきたい。
あと、外灯が少ないと思います。あったとしても、とても暗く感じます。

16. 大型ショッピングモールを、つくってほしい。
遊ぶ所(カラオケなど)・本屋・大きな公園(バスケットボールが出来る位の)
がほしい。
清水町体育館を、新しくしてほしいです。
17. お年寄りの人や、小さい子どもたちと接することのできる、町づくりがいい
です。そしたら色々な人と接することができ、親しくなり、挨拶をちゃんと
できるようになると思います。

～ 御影中学校 3年生 9名 ～

1. 本通に店を増やして、活気ある町にしたい。鉄南に、自販機を置く。
2. もっと大通りを、にぎやかにしてほしい。
3. 御影駅について
僕は、御影に暮らしてます。現在時々利用してますが、今後はおそらく、利
用する頻度が高くなると思われます。そこで僕は、たまに御影駅の看板の塗
り替え等といった表面的な補修・改善を見る事がありますが、作業を終えた
後に、駅舎内の設備の変化を感じたことはありません。
冬、駅舎内は寒くヒビが目立ち、残念なことにトイレは、清潔とは言えない
状況であります。このように現在の御影駅は、利用しやすくはないと思いま
す。御影駅に本当に必要なのは、表面的な補修ではなく、暖房設備の設置、
壁自体の補修・強化、トイレの清掃などの根本的な改革だと思います。全て
の実現は難しいと思いますが、ぜひ検討してみてください。
4. コンビニみたいなものが、もう少しあってほしい。
子供が遊べるような施設が、もう少しあってほしいと思う。
交番に、人がいてほしい。
5. できる限り、お店を増やした方がいいと思う。
もっと子供が遊べる所を、増やした方がいいと思う。
6. 店が立ち並び、にぎわう町にしてほしい。
7. 自然はこのままに、そして少しサービス業を、増やしてほしい。
公園が汚い、もっときれいにすべき。

8. 御影の国道沿いにある「風車」を、道の駅にする。
9. 今の若い人達が遊ぶ…といったら、カラオケやゲーセン、ショッピングだと思う。清水の人は、帯広に遊びに行く以外、遊ぶ場所がない。もう少し若い人達のためのものをつくると、他の地域からも、来てくれる人が多くなると思う。
まずは、子供。人口が多くなると、よりよい町づくりに貢献できる人々が増えるのではないか。田舎すぎる。これだけ遊ぶ場や公共施設がないと、外に出る人が少なくなると思う。これらのことで、他の町や市との遅れが生じる。

～ 清水高校 7名 ～

1. 平和であってください。
2. きれいな町。
3. 自分は、長くこの清水町に住んでいます。経済的なことは親がやっていてわからないのですが、比較的清水町は、住みやすい所です。人とのつながりもあります。年が離れた人はもちろん同級生も。要は、いじめも小・中でないのかと思いますよ…。就職や進学によって町を離れたとしても、また故郷に戻って来たいと思っています。
4. 自然を、出来るだけ多く残してほしい。公園が沢山あったら、外で遊ぶ子供が増えて、活気ある町になる。
プールをもっと、キレイにしてほしい。
若者向けの、服屋さんがほしい。
5. もっと遊ぶ場所を、増やしてほしい。
6. 変な人は滅多に現われないので、現状を維持しつつ町を発展させれば良いと思います。不審者情報が流れている時の、警察が巡回している様子は良かったです。今してほしいと思う事は、道路などの交通整備です。路面の凹凸が目立つ所の舗装や、事故が多発する場所への信号機の設置などです。
また、若者減少の理由としては、商業施設が充実していないところにあると思います。しかしながら地域の人との触れ合いは、機会も多く良いと思います。
7. 本屋が欲しい。

ご協力ありがとうございました。



第2期清水町地域福祉計画

発 行 北海道清水町

発行年月 平成27年3月

編 集 清水町保健福祉課

住 所 〒089-0111 北海道清水町南3条2丁目1番地

電 話 0156-69-2222 FAX 0156-69-2223